

其家ヲ爲スニ早シトテ、えみゝるヲシテ二年間大陸旅行ヲ爲サシメ、歸リテ日出度結婚セシメ、程ナク一子ヲ舉グル段ニテ筆ヲ結ベリ。

えみゝるノ批評

要スルニ「えみゝる」ノ一書、之ヲ貫クニ、自然主義、箇人主義ヲ以テシ、其中ニハ幾多ノ矛盾ト背理トヲ含メリトイヘド、コレ第一ニ當時ノ古代ヲ據所トシ、宗教ト古文學トヲ以テ人ヲ育テムトスル煩瑣學風ニ反抗シ、第二ニ當時ノ如ク教育ヲ外部ヨリ見ズ、偏ニ之ヲ兒童自身ノ性情ニ求メ、人ノ心ノ根底ニ分ケ入りテ、其ノ自然ノ發達ヲ追ヒ、活キタル人ヲ作ラムトシ、第三ニ、兒童ノ自己活動ヲ重ンジ、感覺知覺ノ教育ヲ主張シ、第四ニ感情ノ教育ニ着眼シ、第五ニ當時ノ教科ガ文學宗教ヲ主トセシニ反シ、自然科學ト實業トヲ重ンジ、第六ニ教師ノ感化力ヲ重ンジ、教育的勢力ヲ一ニ集ムルニア

ばせだう

ラズバ、教育ノ効ノ舉リ難キヲ示シタルモノニシテ、謂ハゞ當時ノ教育ノ正反對ニ出デ、之ヲ其根底ヨリ覆サムト試ミタルモノナリ。ばせだうハ即チ此精神ヲ實地ニ行ハムガ爲メニ起リ、かんとモ之ニ刺激セラレ、べすたるつちモ亦大ニ之ニ動かサレテ新教育ノ振興ニ盡力セリ。

第三節 ばせだう ばせだう(一七二三—一七九六)ハ、獨

逸ノはむぶるひニ生ル。家庭ノ教育十分ナラザリシカバ、自活シテらいぶちつひ大學ヲ卒業セリ。千七百五十三年、そろーノ専門校ノ倫理文學ノ講師トナリ、千七百六十一年あるとなノ中學校長ニ轉ゼリ。此所ニテるゝそーノ「えみゝる」ヲ讀ミテ之ニ感奮シ、千七百六十八年、學校ノ學科ト其感化トニツキ世ノ志士仁人ニ告グ「トイフ書ヲ著ハシ、大ニ世間ノ注意ヲ惹ケリ。中ニ言フ、子供ヲ子供ノ如ク育テ、成ルベク長

ク腐敗セシメズニ育タシメヨ。兒童ノ鋭敏ナル力ハ、其感覺力ナリ。兒童ハ抽象的ノモノニハ一ノ面白味ヲ有セズ。從ツテ兒童ニハ其感覺ニ訴ヘテ以テ世界ヲ知ラシメザルベカラズ。天然自然ニツキテ彼ニ知識ヲ與ヘヨ、如何ニモシテ記憶ニノミ訴フル残酷ノ練習ヲ爲サシムルコト勿レト。千七百七十年ニハ、教育法ニツキ、世ノ父母ニ示ス「トイフ書ヲ著ハシ、兒童七歳ヨリ十八歳ニ至ル迄ノ教育法ヲ説キ、中ニ「教育ノ目的ハ、兒童ヲ公共ノ愛國者ト爲シ、且ツ其幸福ナル生活ヲ營マシムルニアリ」ト言ヘリ。コレ全ク當時ノ宗教的、形式的ノ人ヲ作ルニ傾キタルニ反對セシモノナリ。千七百七十四年、氏ハ更ニ「初學讀本」ヲ出シ、繪入ノ讀本ヲ示セリ。是等ノ書ニ依リテ、氏ノ名ハ大ニ知レ渡リ、其實科的ノ教育ニ賛成ヲ表スル者出デ來リシガ中ニ、てつさう公ハ、氏ニ保

當時ノ普通教育

護ヲ與ヘ、其意見ヲ實行スベキ爲メニ學校ヲ起サシメタリ。コレ即チ汎愛院ニシテ、其設立ハ千七百七十四年十二月二十七日ニアリ。翻リテ當時ノ教育狀況ヲ見ルニ、兒童ノ間ハ、最モ苦シキ時期ト思ハレ、其教ヘ方ハ一般ニ残酷ニシテ且ツ無慈悲ナリキ。文法ハ一ニ記憶ニ訴ヘテ教ヘラレ、聖書及ビ詩モ同様ニ暗誦セシメラレキ。學校ニ於ケル普通ノ罰ハ、百十九ノ讚美歌ヲ暗誦セシメラル、ニアリキ。學校内ハ薄暗クシテ讀ミ書キヲノミ責メラレ、誰ガ見テモ、學校ハ樂シキ場所トハ見エズ、活動的ノ生々シタル子供ハ却リテ苦々シキ罰ヲ受ケキ。

汎愛院

教育ノカ、ル哀レナル状態ニ當リ、ばせだうハ、るーそーノ自然主義ヲ奉ジテ「汎愛院」ヲ立テタリ。「汎愛院」ノ名ハ、基督教ヲ奉ジ、世ニ有用ナル人ヲ作ルトノ意ヨリ命ゼリ。汎愛院ニ

ハ寄宿舎アリテ、富家ノ子弟ト貧民ノ子弟トハ別々ニ日課
 ナ立テ、教ヘタリ。其教育ノ原則、一ニ自然ニ從フニアリ。故
 ニ生徒ノ自由ヲ許シテ、毫モ之ヲ檢束セズ、讀書ノ如キ、初メ
 リ古語ヲ教ヘズ、一ニ實地ヨリ自然ニ順ヒテ之ヲ教ヘタリ。
 即チ人トイフ題ニツキテハ、外國人、野蠻人ノ圖ヲ示シ、更ニ
 人體ノ組織ヤ、又身體ノ病氣ヲ治療スル病院ヤ、藥ノ名ナド
 ナ教ヘ、其他動物、植物、礦山學、化學、歷史、通商ノ如キ事柄ヲ一
 々實地ニ訴ヘテ教ヘタリ。教科ハ當時ノ文學、宗教ヲ主トス
 ルニ反シ、スベテ實科ニ關スル者ヲ重ンジタリ。猶此學校ニ
 テハ當時ノ教育ト反シ、大ニ身體ノ教育ニ注意シ、體操ヲ學
 校課程ノ一トセリ。之ニハ當校ノ教師タリシグー、つ、む、つ
 大ニ與リテ力アリタリ。ばせだう言フ、兒童ハ運動ト騒グコ
 ト、ヲ好ム。ユ、ニ自然ノ意味ヲカルベカラズト。此意見ヨ

リ、氏ハ大ニ體操ヲ獎勵セシノミナラズ、亦遊戲ニ注意シ、各
 種ノ遊戲ヲ工夫シ、此間ニ色々ノ知識ヲ與フルコトヲ計レ
 リ。

「汎愛院」ハ斯クノ如キ教育法ヲ取りテ、大ニ世ノ贊同ヲ得、世
 間ノ囑望一方ナラザリシガ、ばせだうハ、性、不規則ノ人ニテ、
 管理能ク擧ラザリシヲ以テ、千七百九十三年、遂ニ閉校セザ
 ルベカラザルニ至レリ。シカモばせだうガ人類ノ友トシテ
 此學校ヲ起シタル影響ハ長ク存シ、新教育ヲ起ス道ヲ開ケ
 リ。氏晩年窮迫シテ遂ニ酒ノ爲メニ死セリ。遺言シテ曰ク、余
 ガ遺骸ハ、同胞ノ爲メ、解剖ニ附セラル、ヲ望ムト。其博愛ノ
 精神、死シテ猶滅ビザルヲ見ルベシ。

第四節 かんと かんと(一七二四—一八〇四)ハ、獨逸ノ

けにひすべるひニ生ル。父ハ正直ナル馬具師ニシテ、母ハ敬

かんと

度深キ人ナリキ。けにひすべるひ大學ヲ卒業セシ後、家庭教師トナリテ、其好ム哲學ヲ研究セリ。千七百五十五年、同大學ノ講師トナリ、十五年間、此職ニアリテ、論理學、哲學、物理學、數學、倫理學、人類學、地理學ヲ教授セリ。千七百七十年、即チ氏四十六歲ノ時、初メテ論理學及ビ哲學ノ教授トナリ、千七百九十七年、老病ヲ以テ退ゾカザルベカラザルニ至ルマデ、此椅子ニ就キタリ。氏猶講師タリシ時、えな、えるらんげん等ノ大學ヨリ、幣ヲ厚ウシテ招聘セシカド、應ゼズ、けにひすべるひ大學ニ育チテ、同大學ニ終レリ。氏ガ毎日ノ行、一定シ居リテ、終生違ハズ。其散歩ノ如キ、けにひすべるひノ町ノ時計ヨリモ正シト言ハレタルガ、唯る「そー」ノ「えみー」ヲ讀ミシ時ノミ、其面白サノ爲メニ、散歩ヲ廢シキト傳フ。生涯妻ナク、唯一老僕ヲ相手トシテ、極メテ清淨質素ナル生活ヲ送り、一身ヲ

かんといノ學說

眞理ノ研究ニ捧ゲタリ。シカモ常ニ謙遜ニシテ、其近世哲學ノ中心タリシニ似ズ、人ニ對シテハ、濫リニ自己ノ哲學系統ヲ口ニスルコトナカリキトイフ。氏ハ教育學ヲ著ハサザリシカド、教育ニツキテ折々講義シタリシモノヲ、氏ガ死スル前年、其弟子ておどゝる、りんく「教育學ニツキテ」トイフ題ニテ出版セリ。此書、教育學思想發達ノ上ニハ少カラヌ影響ヲヲ傳ヘタリ。

氏ハ先ヅ人ト動物トヲ比較シ、人ノミ發達ノ素ヲ有スル者ニテ、教育ヲ要ストシ、人ノ人ヲシクナルハ、全ク教育ニ依ルト言ヘリ。而シテ其人ヲ教育スル目的ハ、自然ニ附與セラレタル力ヲ發達セシメ、人間ノ運命ヲ成就スルコトニ向ケザルベカラズ。尤モカ、ル大目的ハ、一時代ニ達シ得ラル、モノニアラズ、時代ニ時代ヲ重テ、人間ノ共同目的ヲ達セザ

ルベカラズ、人間ノ共同目的トハ、此世界ガ善ニ進ミ行クコトナリ、即チ教育ハ此世界共通ノ善ヲ進ムルコトヲ其理想トシ、一代又一代、努力ニ努力ヲ重テ、此目的ヲ達セザルベカラズ。此故ニ兒童ハ世界ノ市民トシテ教育セラルベク、決シテ現在ノ爲メニ少年ヲ教育スベカラズ、須ラク人間將來ノ運命ノ爲メニ之ヲ教育スベシ。

カ、ル人間ヲ作ルニハ、第一ニ其體育ニ注意スルコト必要ナリ。兒童ノ肢體ハ務メテ之ヲ働カシメ、同時ニ衛生ノ智識ヲ與フベシ。快樂ニ耽ラシムルコトナク、忍耐ノ必要ヲ覺エシムベシ。遊戯ト體操トハ、身體ヲ強壯ニ爲スハ勿論、心ニ自信勇敢ノ德ヲ養ハシム。第二ニハ其心ヲ啓發セザルベカラズ。心ヲ啓發スルニハ作業ヲ課スベシ。作業ハ一定ノ目的ニ其勞力ヲ注グノ謂ニシテ、之ニ依リ勤勉ノ念ヲ養ヒ、同時ニ

種々ノ知能ヲ啓發ス。心ノ啓發ニ於テハ、判斷、推理ノ力ヲ練ラシムルコトヲ力ムベク、而シテ其推理力ヲ練ラシムルニハ、數學最モ効アリ。推理力ヲ練ラシムル教授ノ形式トシテハ、そくらてすノ如キ問答法ヲ用フベシ。カクシテ、スベテ兒童ニハ、其知レルコトハ之ヲ實地ニ行ハシムコトヲ務ムベシ。第三ニハ其人ト爲リテ德化スベシ。一體教育トハ、人ヲ教化シ、開化シ、德化スル事業ヲ言フ。兒童ヲ德化スルニハ、初メニハ道德的指揮ニ依ラザルベカラズ。道德的指揮ニハ德行ヲ示シテ、之ヲ其自由意志ニ結合セザルベカラズ。次ニハ道德的ノ教化ヲ施シテ、何が善、何が惡、何ヲ行爲ノ主義トスベキカヲ知ラシメザルベカラズ。主義一タビ定マランカ、之ニハ義務ノ念ヨリ絶對的ニ服從スルコトヲ知ラシメザルベカラズ。而シテ此主義ニ從フコトハ、他ヨリ強ヒラル、ニ

ア、ラズ、自ラ自由意志ニ依リ、自ラノ理性ニ照シテ服従スルモノナルコトヲ知ラシメザルベカラズ。カクシテ從順、誠實、友愛及ビ公平ノ徳ニ慣レシメ、以テ世界的市民タル徳性ヲ完成セシムベシ。氏ハカ、ル徳性ヲ涵養スルニハ、宗教々育ヲ必要トセリ。シカモ此宗教ハ、徳性ヲ完成スルガ爲メニ必要ニシテ、吾等ノ良心ヲ神ノ現ハレト見、此良心ノ本タル神ヲ敬シ、之ニ從フコトニ慣レ、良心ト良心ト相照サシムルノ謂ニシテ、カク道德ヲ神ト結ビテ教フルコトニ依リ、一切ノ同胞ニ對スル友愛、公平ノ徳ヲ解シ來ルト説ケリ。

かんとノ教育思想ヲ繼ゲル者ニ、ふいひて、にいまいえるナドアリ。後ニ科學的教育學ヲ建テシへるばるとハ、べすたるつちノ外、此二氏ノ影響ヲモ受ケタリ。

教育制度ノ制定

第五節 教育制度ノ制定 十八世紀ニ於テハ、以上ノ

獨逸

如キ教育家起リテ、新教育ヲ主張シ、之ヲ實地ニモ行ヒタルト並ビ、他方ニハ獨、佛、英諸國、皆ソレト、教育ヲ宗教ノ徒ニ委託スベカラザルヲ悟リ、普通教育ノ基ヲ開クコトニ着手セリ。尤モ此時代ニ、大學及ビ其豫備門ノ教育ノ榮エタルハ、從來ト異ナル所アラズ。

先ヅ之ヲ獨逸ヨリ言ハムニ、普魯亞王ふりーどりのつひ一世（二六五七—一七一三）ハ、深クふらんけヲ信用シ、教育上ノ法令ヲ出ス毎ニ、之ト諮リ、教育ヲ教會ノ手ニ委ヌルコトヲ拒ミ、「高等教務院」ヲ起シ、學者ヲ招集シテ、大ニ教育ノ事ヲ議セシメタリ。コレ普魯西ニ於ケル學制確立ノ端緒ニシテ、本世紀ニ入り、ふりーどりのつひ大王（一七一二—一七八六）ハ、ふらんけノ弟子ヘツけるヲ引キテ教育顧問ト爲シ、千七百六十二年八月十二日「普通學校令」ヲ出セリ。コレ實ニ現今獨逸小

學校令ノ本トナリタルハ勿論、歐洲各國小學校令ノ手本トナリタルモノニテ、我國ノ小學校令モ、カ、ル精神ヲ參酌セリ。之ニ依レバ、普魯西臣民ノ子弟、五歳ヨリ十四歳マデノ者ハ、之ヲ強迫シテ學ニ就カシムル趣旨ニシテ、若シ父兄又ハ後見人タル者、其兒女ノ就學ノ怠ル者アラバ、其兒女ヲ學校ニ出セルト同様ニ、學校ニ對シテ授業料ヲ收ムベク、且ツ學校ニ監督官ヲ置キ、毎年一回不就學兒童ヲ取締ルベキ事ヲモ規定セリ。大王崩ジ、ふりーどりつひ、ういるへるむ二世（一七四四—一七九七）位ニ即クニ及ビ、大王ノ志ヲ承ケテ學制ノ改革ヲ計リ、千七百七十四年ニ公布シタル「普通國法」中ニ、國家行政ノ一部トシテ、教育事務ヲ入レ、國家ハ、スベテノ教育ヲ監督スベク、宗教上ノ信仰ハ如何ニ異ナルモ、公立學校ニハ入學ヲ拒マザルベク、又教育費ハ其地方々々ノ負擔トス

佛蘭西

ベキ旨ヲ規定セリ。次イデふりーどりつひ、ういるへるむ三世（一七七〇—一八四〇）位ニ即キ、佛帝なほれおんノ爲メニ蹂躪セラレ、之ヲ恢復スル爲メニ、其相すたいんヤふいひてナドヲ引キテ、大ニ教育ヲ振興セシガ、之ハ十九世紀ニ屬ス。佛ニテモ、亦此世紀ニ國民教育ノ端緒ヲ開ケリ。其始メハじえしゆいつと派ノ形式的ナル宗教々育ヲ排斥スルヲ以テ起リ、遂ニ教育ノ權ヲ政府ノ手ニ奪ヘリ。此運動ニ對シ、ラシャーろつて（一七〇一—一七八五）ろーらん（一七三四—一七九四）革命前ニ働キ、こんどるせー（一七四三—一七九四）たれいらん（一七五八—一八三八）革命後ニ働ケリ。ラシャーろつてハ、るーそーノ「えみーる」ノ出版セラレシ一年後、國民教育ニ關スル意見ヲ發表シ、公立ノ教授ハ、公立ノ事務ニシテ、政府ノ事業タルベク、宗教ノ教師ノ代リニ俗人ノ教師ヲ用

ヒ、寺院ノ學校ノ代リニ公立ノ學校ヲ開クベキコトヲ主張セリ、ユレ實ニじえしゆいと派ニ對スル最後ノ打撃ナリキ。巴里ノ議會長るらんモ、千七百六十八年ニ、其學制案ヲ公ニセリ。即チ公立學校トシテ、小學校、中學校、專門學校及ビ大學ヲ設ケ、巴里ニ「通信局」ト名ツクル教育ノ一大中央機關ヲ設ケテ、之ヲ統轄シ、佛國全體ニ劃一ノ教育制度ヲ布キ、以テ國家的精神ヲ充溢セシムベシト論ゼリ。然レドモ未ダ實地ニ行ハル、ニ及バズシテ革命ハ來レリ。佛國革命ハ、佛國ノスベテノ舞臺ヲ一洗スルト共ニ、又教育ノ舞臺ヲモ一洗セシガ、たれいらんハ革命後ノ新政府ノ學制改革ニ大ニ盡力セリ。千七百九十一年九月四日ニ出デタル憲法ニハ、「各市民ニ普通ナル公立教授ノ系統ハ作ラレ組織セラレベシ。而シテ之ニ對シテハ無謝儀ノ制ヲ取ルベシ」ト規定セシハ、蓋

シ氏ガ助言ニ基ツケリ。氏ハもんですきゆーガ、教育ノ法令ハ政府ノ法令中ノ一部ヲ占メザルベカラズトイフ原則ヲ奉ジ、又無學ハ即チ人民ヲ不自由ニスルモノナレバ、其教育ヲ進ムルハ、之ヲ自由ニシ、人ノ人タル同等ノ權利ヲ伸バサシムル所以ナリトノ考ヨリ、大ニ普通教育制度ヲ立ツルコトニ盡力シ、學校制度ヲ分チテ、小學校、中學校、專門校及ビ國立大學トシ、小學校ノ教科ハ國語、算術、初步、宗教大意、道德及ビ憲法ノ大意ニシテ、體力、知力、及ビ道德力ノ發達ヲ期スベシト言ヒ、猶女兒ノ就學モ男兒ト同様タルベシト説ケリ。こんどるせーハ、又新政府ノ命ヲ奉ジ、千七百九十二年四月ニ公立教授ノ案ヲ立テタリ。氏ハ自由平等ノ精神ヲ最モ強ク主張セル人ニテ、此理想ヲ實行セムニハ、教育ノ力ニ依リテ、人民ノ無智ヲ啓キ、一時代ハ一時代ヨリ進歩シ行キテ、遂ニ

英國

自由平等ノ域ニ進マザルベカラズ、故ニ酒ノ壘ニ代フルニ
 書物ヲ以テシ、飲酒店ニ代フルニ圖書館ヲ以テセザルベカ
 ラズトイヒ、公立教授ヲ施ス制度ヲ分チテ五ツトセリ。即チ、
 尋常小學校、高等小學校、中學校、高等中學校、及ビ國立學藝院
 ニシテ其尋常小學校ニ於テハ、讀書、習字、算術、農業、工藝大意、
 法制大意ヲ課シ、高等小學校ニ於テハ、之ニ地理、歴史加ハル
 ベシト言ヒ、猶たれいらんと均シク、女子教育ノ男兒教育ト
 共ニ行ハレザルベカラザル旨ヲ主張セリ。是等ノ考、實ニ佛
 國ノ學制ヲ完備セシムル光明トナレリ。
 英國ハ、此世紀ニ於テ、思想界ノ重要ナル位置ヲ占メシモ、實
 際教育ノ制度ニ至リテハ、改善スル所ナク、多クハ之ヲ自然
 ノ成行キニ任セ、私人ノ手ニ委ネタリ。コレ其國柄ノ保守的
 ナルガユエナリ。富國論ノ著者あだむ、すみすハ、國家富強ノ

十九世紀
教育總
說

第十章 十九世紀ノ教育

二〇九

一條件トシテ、國民ノ知識ヲ開發スルヲ必要トシ、政府ノ設
 置監督スル國民學校ヲ起サムコトヲ建議シタレドモ、之ニ
 同ズルモノ少カリキ。英國ニテハ、下等社會ノ教育ノ如キハ、
 私人ノ慈善事業ニ委ネタレバ、貧民學校ヲ起スモノ續々ア
 リキ。例ヘバ千六百九十五年ニ創立シタル「基督教ノ知識擴
 張會」ハ此世紀ニ入りテ漸々其事業ヲ擴張シ、無謝儀學校ヲ
 起シタルガ如シ。又日曜學校ハ、千七百六十一年ニ始メテ起
 リタルモノニシテ、千七百八十五年以後ハ、「日曜學校補助獎
 勵會」起リテ之ニ盡力セリ。其課業ハ宗教ヲ本トシ、讀ミ書キ
 ノ初步ヲ教フルニ過ギザリキ。

第十章 十九世紀ノ教育
 第一節 十九世紀教育ノ總說 十九世紀ノ教育ハ、十

八世紀ノ一洗時代ノ後ヲ承ケテ教育ガ各種ノ方面ニ大ニ完備シタル時代ナリ。歐米各國ハ何レモ深ク國民教育ノ必要ヲ感ジテ男女兒ヲスベテ就學セシメテ國民タル資格ヲ得シムル國民教育制度即チ普通教育制度ヲ確立シ又全國ノ學政ヲ統一スルタメノ中央教育行政機關ヲ設ケ而シテ一私人ノ業トシテハ近世教育第二ノ改革家ト謂ハルベサタラフツチガる一そ一ノ思想ヲ承ケ一生ヲ國民教育ニ委ネテ國民學校ノ模範ト其教育法ト示セルアリ其助手タリシふれ一べるガ幼稚園ヲ起セルアリ。ベサタラフツチノ教育ノ精神ニ感ゼシ哲學者へるばるとガ科學的教育學ヲ建ツルアリ。或ハサペンサーガ此世紀ヲ動カシ社會進化ノ思想ヲ代表シテ實利的ノ教育ヲ唱フルアリ。而シテ又理科學發達ノ賜トシテ殖産興業大ニ起ルニ至リシヨリ實業教

ベサタラフツチ

育勃興シ猶不具者教育法ナドモ研究セラルニ至リ教育制度ノ上ニモ學說ノ上ニモ方法ノ上ニモ新ナル面目ヲ現出スルニ至レリ。其本世紀ニ於テ教育制度ノ完備シタル状態ハ次章歐米現時ノ學制ト言フ條ニ説クベケレバコトニハ其他ノ教育ノ發達ニツキテ言フベシ。

第二節 べサタラフツチ 十九世紀ノ教育ヲ開キタル人

ハベサタラフツチト言フモ不可ナル所ナシ。氏ハ千七百四十六年、端西ノフーリフひ府ニ生ル。六歳ノ時父ヲ亡ヒシカバ母ノ手一ツニテ育テラレ極メテ感情深ク生ヒ立テリ。サレバ小學校ニ入りテモ往々他生徒ノ爲メニ凌ガレタルガ其性質ノ順良ニシテ且ツ物ニ熱中スル傾アルコトハ夙ニ人ノ注目スル所トナレリ。曾テ氏ガ家ニ必要アリテ氏ハ其金ヲ借ル使ニ遣ハサレタルガ歸途會一牧童ノ牝牛ヲ失ヒテ

道途ニ泣ク者アルニ逢ヘリ。氏之ヲ見テ愛憐ノ情ニ堪ヘズ、
盡ク其借リタル金ヲ出シテ之ニ與ヘ、其禮ヲ述ブルヲ聞カ
ジトテ耳ヲ掩ウテ急ギ去レリ。十八歳ノ時、僧侶トナラムト
セシカド、初度ノ説教ニ失敗セシ爲メ、法律家ニ轉ゼムトセ
シガ、大ニ健康ヲ害シタルヨリ、田舎ニ引キ込ミテ農業ニ従
事シ、一新宅ヲ構ヘ、之ヲのいほつふト名ヅケタリ。コレ氏ガ
二十一歳ノ時ニシテ、後二年ニシテ妻ヲ娶レリ。
カ、ル幸福ナル生涯ノ來レリト思フ間モナク、氏ガ農業ハ
スベテ失敗ニ歸セリ。氏決心シテ曰ク、我が所有地ヲシテ教
育事業ト農業トヲ結合セル中心タラシメムト、是蓋シ此以
前氏ハるトそトノ「えみ」ト「讀ミテ、大ニ感奮シ、教育ニ興
味ヲ感ジタルニ依ル。即チ諸方ヨリ貧兒五十人ヲ集メ、且ツ
教ヘ且ツ働カシメタルニ、中ニハ逃亡スル者ナドアリテ、五

年ノ後閉校セザルベカラザルニ至リ、氏ハ窮迫ノ餘、著述家
トナリ千七百八十年ニ「隱者ノ夕暮」、千七百八十一年ニ「リ
んはるどト」ト「げるとる」ト「ど」ヲ出シ、幸ニ世間ノ注意ヲ惹キ、大
ニ氏ノ名ヲ高カラシメキ。カクテ暫クハ、或ハ書キ或ハ耕シ
ケルガ、千七百九十八年すたんつ府ハ佛兵ノ爲メニ焼カレ、
數多ノ孤兒ヲ生ジタリ。氏即チ是等孤兒ノ父トシテ、端西ノ
政府ヨリ送ラレ、一寺院ニ四歳ヨリ十歳マデノ孤兒八十人
ヲ集メタリ。コレ、ニテ氏ハのいほつふニ於ケリシ如ク、學問
ト手工トヲ一緒ニ教ヘ、家庭教育ノ精神ヲ以テ之ヲ感化セ
リ。氏記シテ曰ク、「一切ノ世話、一切ノ教授ハ、皆自ラ之ニ當ラ
ザルヲ得ザリキ。我手ハ彼等ノ手ト觸レ、我目ハ彼等ノ目ト
離レザリキ。彼等泣ケバ余モ亦泣キ、彼等笑ヘバ余モ亦笑ヘ
リ。彼等ガ食物ハ、余ガ食物ニシテ、彼等ノ飲物ハ、同時ニ

余は飲物ナリキ。余ハ何物ナモ有セズ、家ナク友ナク召使ナク、唯アル者ハ彼等孤兒ノミナリ。余ハ彼等ノ中央ニ眠リヌ、余ハ夜ニハ寢床ニ就ク最後ノ者ニシテ、朝ニハ起キ出ヅル第一ノ人ナリキ。余ハ彼等ト共ニ祈リシ、彼等ガ眠ニ就ク前ニハ、寢床ニテ彼等ニ教ヘキ。然ルニ千七百九十九年ニ佛兵ハ又モ侵入シ來リテ、此寺院ヲ病院ト爲シ、カバ、已ムナク此學校ヲ解散セリ。

氏ハコ、ニぶるぐどるふニ行キ、一小學校ノ教師トナリシガ、同僚ニ氏ヲ妬ム者アリテ、氏ハ此校ヲ辭シ、更ニ此地ノ古城址ニ、くるゆーじート言フ教育家ノ一學校ヲ立ツルニ加ハリ、相共ニ力ヲ盡シ、ガ、模範小學ノ評ヲ得タリ。千八百〇二年、瑞西ニ内亂起リ、瑞西政府ハ之ガ處置ヲ佛國政府ニ一任シタリシガ、此時氏ハ佛國巴里ニ於ケル談判委員ニ選バ

レテ出席シ、此機ヲ利用シテ、佛帝をぼれおん一世ニ其教育意見ヲ陳シタル結果、帝ハ部下ノねい將軍ヲシテ、氏ノ教育主義ヲ佛國ニ導ク計畫ヲ爲サシメタリ。

然ルニ此學校モ經費ノ都合ニテ閉ヂザルベカラザルニ至リ、此所ヲ距ル三里許ノぶつふぜーノ教師ニ轉ゼリ。此所ニテ都合思ハシカラザリシカバ、千八百五年ニいぐえるだんニ學校ヲ開ケリ。氏ヲ慕フ所ノ生徒、直チニ此所ニ群集シ、前ニ氏ト共ニ働キシ教師モ亦來リ助ケ、ぶるぐどるふニ於ケルヨリハ、一層ノ盛況ヲ呈セリ。此時獨逸ハ佛國ト戰ヒテ敗北シ、之ヲ恢復スルニハ、教育ヲ盛ンニスルニ如クハナシトシ、普魯西王ふりーどりつひ、うゐるへるむ三世ハ、熱心ニ氏ノ教育法ヲ採用スル方針ヲ取り、其皇后るいぜノ日記中ニ、又屢、氏ノ精神ニ感服セル言葉アリ。カクテ千八百八年九月、

普魯西政府ハ、二人ノ留學生ヲ氏ノ許ニ送リテ、教授法ヲ研究セシメ、丁抹和蘭ヨリモ、亦留學生ヲ送り、千八百九年ニハ氏ノ下ニ十五名ノ教師働キ、生徒ノ數百六十五名ニ達シ、教授法研究ノ爲メ、歐洲各國ヨリ派遣セラレシ人々三十二名ニ及ビ、更ニ歐米ノ知名ノ人々參觀ニ來リ、爲メニいづゑるだんノ小都府ハ、天下ニ名高クナレリ。ふれいべる及ヒへるばるとモ亦此時來リテ研究セリ。

千八百十五年氏ハ、此五十年間氏ト困厄ヲ共ニセシ最愛ノ妻ヲ失ヒ、次ギテ右ノ學校ノ教師間ニ内訌起リ、千八百二十五年遂ニ閉校セリ。氏ハコヽヽニモトノいほつふニ退ヅキ、千八百二十七年八十歳ヲ以テ歿セリ。碑銘ニ曰ク、ゴヽヽはいんりつひ、べすたるつち眠ル、千七百四十六年正月十二日つーりつひニ生レ、千八百二十七年二月十七日ぶるつぐニ

歿セリ。のいほつふニ於ケル貧民ノ救濟者、りーんはるどト
 げるとるーどニテ人民ヘノ説法者、すたんつニ於ケル孤兒
 ノ父、ぶるぐどるふ及ヒぶつふぜーニ於ケル新國民學校ノ
 創立者、いづゑるだんニ於ケル人類ノ教育者。此人ヤ、眞ノ人
 間、眞ノ基督教徒、眞ノ市民ニシテ、身ノ爲メヲバ思ハズ、一意
 他ノ爲メニ盡シタリ。彼ノ名ハ不朽ナレト。

氏ガ教育主義ハ之ヲ一言ニ約ムレバ、人間ノスベテノ能力
 ナ、自然的ニ進歩的ニ且ツ調和的ニ發達セシメ、以テ圓滿ナ
 ル神ニ似タル人ヲ作ルニアリ。氏イフ、健全ナル教育ハ、水氣
 アル所ニ植エラレタル樹ニ例示セラル。樹ノ資質、其形態、其
 比例ヲ含メル小サキ實ヲ此上ニ植エヨ、直チニ芽生エシテ、
 葉トナリ、幹トナリ、枝トナリ、花トナリ、實トナルベシ。カクシ
 テ此全キ樹ハ、相依リテ其生命ヲ保チ、有機的部分ヨリ成レ

ル、絶ッベカラザル鎖ノ如クナルベシ。而シテカク成ルコトハ、其實ニ存スル計畫ニ依レリ。人モ亦此樹ニ均シク、新ラシク生レタル小供ニハ、其一生涯ノ中ニ現ハルベキ種々ノ働潜在シ、コレ等ノモノ次第々々ニ一ノ調和セル全體ニ發達シ、終ニ神ノ面影ヲ宿ス人トナルト。コレ實ニ兒童ニハ自己活動ノ力備ハルコト、兒童ヲ導クニハ自然ノ發達ニ從フベキコト、及ビソノ教育ニハ、自ラ統一系統アルベキコトヲ主張シタルモノニテ、更ニ之ヲ箇條立ツレバ、(一)教育ノ原則ハ之ヲ人間ノ性質ニ求メザルベカラズ。(二)其性質ハ體力、知力、德行力ヨリ成レル一ノ有機體ニシテ、發達セムト用意シ煩悶セルモノナリ。(三)故ニ教育ノ事業ハ、消極ト積極トノ二法アラザルベカラズ。消極ニ於テハ、兒童ノ發達ヲ妨グル者ヲ除キ、積極ニ於テハ、其力ヲ働カスヤウ刺激セザルベカラズ。

(四)其自己ノ發達ハ感覺ヨリ始マリテ知覺トナリ、知覺、概念トナリ、テ知識ノ基礎ヲ爲ス。(五)自發性ト自己活動トヲ正シク指導スルハ、教育ノ要義ニシテ、兒女ハ斯クシテ其ノ力ト獨立トヲ得。(六)實際上ノ習練ハ知識ニ於テヨリハ、寧ろ實行ニ依リテ得ラル。知ルコト、爲スコト、ハ一緒ニ結バレザルベカラズ。教育ノ重ナル目的ハ、實ニ生徒ノ力ヲ發達セシムルニアリ。(七)スベテ教育ハ、兒童自身ノ觀察、兒童自身ノ經驗ニ基キセザルベカラズ。コレ實ニアラユル知識ノ眞ノ基礎ニシテ、若シ然カセザル時ハ、空虚、淺薄、虛妄ノ唯言語上ノ知識ヲ得シムルニ至ルベシ。始メニ實物ヲ教ヘテ、然ル後其符號ヲ教ヘヨ。始メニ實物ヲ示シテ、然ル後言葉ヲ教ヘヨ。(八)兒童ガ自己ノ觀察ニ依リテ得タル者ハ、自身ノ言葉ニ依リテ説明シ、記載シ得ル所ノ實際ノ所有トナルニ至ルベシ。之

三三〇
ヲ爲スベキ其力ハ、以テ其知識ノ精確ナルコト、其範圍ト
ナ計ル標準トナルベシ。(九)兒童ノ發達ハ、近キヨリ進ミテ遠
キ所ニ到達セムコトヲ要ス。故ニ具體ヨリ抽象ニ、個物ヨリ
一般ニ、既知ヨリ未知ニ及ベトナル。

ふれーべ

第三節

ふれーべる

ふれーべるハ、即チベすたるつ

ちノ助手タリシ人ニテ、ベすたるつちノ意見ヲ承ケ、幼稚園
ヲ起シタル人ナリ。

ふれーべる(一七八二—一八五二)ハ、獨逸ノちゆーりんげん
ニ生レヌ。幼ニシテ母ヲ失ヒ、其後、叔父ニ養ハレ、十七歳ニシ
テ、えな大學ニ入學シテ、數學、物理學ナドヲ研究セシガ、貧困
ノ爲メニ學ヲ卒ルコト能ハズ、遂ニ轉ジテ種々ノ職業ニ就
ケリ。シカモ一モ成功セズ。會、ふらんくふるとノ師範校長、氏
ニ教師タラシコトヲ求メヌ。氏此ノ職ニ就キテヨリ無上ノ

喜悅ヲ感ジ、此ノ時ノ事ヲ記シテ、魚入水ニ於ケルガ如シト
云ヘリ。此時氏ハ二十三歳ナリシガ、三年ノ後、瑞西ノいんぐ
るだんナルベすたるつちノ許ニ行キ、一方ニハ其托セラレ
タル三人ノ子供ヲ教ヘ、他方ニハベすたるつちノ助手トナ
リテソノ教育法ヲ研究セリ。千八百十三年ニハ普魯西ノ義
勇兵トナリテ、なほれおんノ軍ト戦ヒシガ、更ニ其翌年ニハ
伯林ニ行キ、居ルコト二年ニシテ再ビ幼者ノ教育ニ一身ヲ
委テヌ。コレ即チかいるほうノ學校ニシテ、幼稚園ノ濫觴ト
イフベク、其名高キ書人ノ教育ヲ著ハシ、モ、此學校ニ於テ
ナリキ。此書ニ論ゼル所ハ、氏ガ兒童ヲ觀察シテ得タル事實
ニ基ヅキタルモノニシテ、要スルニ兒童ノ自由性、自發性ヲ
認メ、之ヲ教育的ニ統一シテ、其自然ノ發達ヲ全ウスベキコ
トヲ説ケリ。カクテ此學校ハ千八百二十九年マデ存立セシ

ガ生徒減少ノ爲メニ廢校セザルベカラザルニ至リ、三十一年ニ、ソノ師ベすたるつちノ從事セシぶるぐどるふノ孤兒院ノ長トナリ、同ジク三十七年ニ歸國シテ、ぶらんけんぶるひニ愈、ソノ幼稚園ヲ建テヌ。幼稚園ハ兒童ヲ植物ニ比シ、學校ヲ花園ト見、教師ヲ園丁トシタルナリ。傳ヘイフ、氏ハ一兒童ノ球ヲ弄ベルヲ見テ此考ヲ起セリト。即チ幼稚園ニテハ、兒童ノ學校ニ入ル前、之ヲ看護シ、其性質ニ從ヒテ之ヲ勵マシ、其體力ヲ強メ、其覺メ行ク心ヲ利用シ、彼等兒童ヲシテ自然界ト人事界トニ注意深クナラシメ、正シキ方向ニ其心ヲ指導シテ、以テ神ト一致セシムコトヲ目的トシ、其遊戲ヲバ、教育ノ主要ナル要素ト見、之ヲ利用シテ恩物ヲ弄バシメ、以テ其知覺力ヲ練ラシメ、カクテ健全ナル教育ノ素地ヲ爲サムトスルニアリ。尤モユノ考ハ氏ノ師ベすたるつちノ唱

ヘシ所ナルモベすたるつちハ教授ノ感覺ニ基キセザルベカラザルコトヲ説キシニ止リ、氏ノ如ク之ヲ精密ニ手工ト關係セシムル迄ニハ至ラザリキ。此點ニ於テ、氏ハ幼稚園ノ祖、恩物教授ノ創立者ト謂ハルベシ。
氏ガ其教授原則トセシ所ハ左ノ如シ。(一)教育ノ事業ハ、正シキ方向ニ自然ノ發達ヲ助クルニアリ。而シテ兒童ノ發達ハ、其生ル、ト共ニ始マル者ナレバ、教育モ亦同時ニ始マラザルベカラズ。(二)事物ノ始メハ其後ノスベテノ發達ニ影響スルガ故ニ、教育ノ始メハ最モ大切ナリ。(三)兒童ニ於テハ心ノ發達ト、身體ノ發達トハ同一ナルヲ以テ、二者ハ常ニ之ヲ結合セザルベカラズ。(四)初メノ間ノ教育ハ、密ニ身體ノ發達ニ關スルガ故ニ、感覺ヲ練習スルコトニ依リテ、其精神ニ影響セザルベカラズ。(五)是等ノ感覺機關ノ練習ニ於ケル順序ノ

正當ナル道筋ハ、兒童ノ本能ノ發表ニ依リテ自然ニ現ハル、ガ故ニ、是ニ依リテ教育ノ自然ノ基礎ヲ見出スベシ。(六)兒童ノ本能ハ唯ニ身體ノ方面ニ現ハル、ノミナラズ、亦精神ノ方面ニ現ハル、ヲ以テ、教育ハ兩方ヲ満足セシメザルベカラズ。(七)四肢ハ運動ニ依リテ發達スルガ故ニ、之ハ第一ニ注意セザルベカラズ。(八)身體上ノ印象ハ生活ノ始メニアリテハ、兒童ノ精神ヲ覺ス唯一ノ媒介ナルガ故ニ、是等ノ印象ハ身體ノ注意ニ於ケルト均シク、系統的ニ整理スベク、決シテ機會ニ放任スベカラズ。(九)正シク知覺セシムニハ、唯ニ目ヲ使フノミナラズ、併セテ手ヲ使ハシメザルベカラズ。(十)知識ト活動トハ密ニ相結バルベシ。

へるばる

第四節 へるばると

へるばると(一七七六一一八四

一)ハ、哲學者ニシテ最モ心理學ニ精シク、自ラ科學的教育學

ヲ建設セリ。教育學ヲ一箇ノ科學タル位置ニ高メシハ即チ氏ノ功ニ歸セザルベカラズ。而シテ其教育學思想ハ、べすたるつちニ負フ所多シ。現今へるばると派ノ獨逸ニ於ケル代表者らいんハ、べすたるつちノ教育思想ノ中ニ、へるばると教育學建設ノ骨組ヲ見出スコトヲ得ベシト言ヘリ。

へるばるとハ獨逸ノおるでんぶるひニ生ル。祖父ハ此地ノ大學豫備門長ヲナシ、父ハ政府ノ高等官ナリキ。母ハ最モ嚴格ナル教育ヲ氏ニ與ヘシガ、不幸ニシテ此兩親ノ縁離ル、コト、ナリシカバ、氏ハ少時家庭教師ノ手ニ育テリ。十二歳ニシテ此地ノ大學豫備門ニ入り、六年ニシテ卒業シ、千七百九十六年ニえな大學ニ入り、當大學ノ教授タリシふいひてノ感化ヲ受ケタリ。三年ニシテ卒業シ、瑞西ノ知事ヲ勤メシふちん、すたいげる氏ノ家庭教師トナリ、此間ニべすたるつ

ちノ所ニ行キ、其ノ教育法ヲ研究セリ。然レドモ専門ノ學者トシテ立タントノ念已ミ難ク、獨逸ノぶれめんニ行キ、非常ニ苦學セリ。千八百二年げつちんげん大學ノ私教授トナリ、教育學ヲ講ゼリ。氏ガ普通教育學ヲ書キシハ、此地ニシテ、千八百六年ニ出版セリ。千八百九年、けにひすべるひ大學ノ哲學教授ノ椅子ニツキ、教育學ノ講義ヲ受持ツト共ニ、一ノ教育學ノ練習所ヲ設ケテ之ヲ監督セリ。コレ實ニ大學ニ教員練習所ヲ附設セシ始メナリ。此練習所ニハ二十人ノ生徒ヲ入レ、教育學研究ノ學生ヲシテ之ガ教育ニ當ラシメ、而シテへるばると自ラ之ヲ監督シ、以テ其學說ヲ實地ニ應用セシメタリ。千八百三十三年、再ビ元ノけつちんげん大學ニ轉ジ、死スル二日前マデ講義シキ。

氏ハ教育學ヲ組織スルニ當リ、其目的ハ倫理學之ヲ定メ、其

方法ハ心理學之ヲ示ストテ、此二學ヲ本トシテ、之ヲ一科ノ學トセリ。倫理學ニ依レバ、人ノ最モ高キ道德的意志ハ、内心自由、完全、仁慈權利、公正ノ五道念ヲ具スルニアリ。從ウテ教育ノ目的ハ、カ、ル五道念ヲ具有セル倫理的品性ノ人ヲ作ルニアリ。カ、ル人ヲ作ルニハ、先ヅ兒童ノ心理ヲ察セザルベカラズ。氏ニ依レバ心ハ、全ク觀念ヨリ成ル。能力說ヲ取ルモノ、謂フ知情意、皆觀念ノ變體ニ過ギズ、感情トテ別ノモノニアラズ、觀念ト觀念トノ調不調ナリ。意志モ然リ。意志トハ觀念ガ或一ノ方向ニ傾ク状態タルニ外ナラズ。ハタ吾等ノ品性トイフモノ、一ノ主要ナル觀念ガ習慣ヲ重キタル結果、主座ヲ占メタル状態ニ外ナラズ。故ニ教育ノ重ナル事業ハ、觀念ヲ練リテ其倫理的品性ヲ作ルニアリ。觀念ヲ練ルニハ、興味ヲ起サシムルニ如カズ。所謂興味トハ、既ニ有セル觀

念カ輕快ニ且ツ愉快ニ新ニ來ル觀念ヲ同化スル際ニ生ズル一種ノ心情ニシテ之ニ經驗的、推窮的、審美的、同情的、社交的、宗教的ノ六種アリ。教授ニ於テ此興味ヲ起サシムルニハ、第一觀念ヲ明瞭ニスルコト、第二觀念ノ聯絡ヲ付クルコト、第三觀念ノ系統ヲ立ツルコト、第四其系統立チタル觀念ヲ應用スルコトノ四段ヲ經ベシ。後ノへるばると派ニ至リテハ、之ヲ豫備、提示、比較、總括、應用ノ五段トセリ。五段教授法ナルモノ是ナリ。尤モ教育ノ方法トシテハ、此外ニ管理ト訓練トアリ。管理トハ兒童ノ疎野ナル性情ヲ矯メテ以テ倫理的品性ヲ得シムル素地ヲ爲スモノニシテ、現在ニ關シ、一方ニハ權威トナリ、他方ニハ愛情トナリテ現ハルベシ。訓練ハ即チ五個ノ道念ヲ具スル如キ主義ニ從ウテ、其行爲ヲ繰リ返サシムル事業ニシテ、未來ニ關シ、教育ノ目的ヨリ言ヘバ、教

授ヨリモ直接ノ方法ナリ。

へるばるとノ弟子ニすとい(一八一五—一八八五)トちるれる(一八一七—一八八二)トアリ。すといハへるばると派中ノ保守派ニシテ、ちるれるハ其改革派ナリ。我國ニ譯セラレタル、けるん、りんどねるナドノ教育學者ハ、皆へるばると派ナリ。現今ニテ此派ノ代表者ハ、獨逸、えな大學ノらいんナリ。

すへんさ

第五節 すへんさ

へるばるとハ、人物養成ヲ主眼

トシ、教科ニハ古文ヲ重ンズルナド、教育上、人文派ト稱スル精神ヲ汲メルガ、英國ノすへんさハ之ニ反シ、教育上、實利派ト稱スル思想ヲ代表シ、社會有用ノ人ヲ作ルヲ教育ノ目的トシ、教科ニハ理科ヲ重ンゼリ。氏ガ著テ「教育論」ト言フ。此書ニ於テ、氏ハ初メニ如何ナル知識ガ最モ價値アリヤト問ヒ、理科即チコレナリト答ヘ、進ンデ教育ノ目的ヲ説キ、教育

ノ目的ハ、人間相互ノ幸福ヲ全ウシ、又社會ノ發達ヲ促ス如キ完全ナル生活ヲ爲サシムル準備ヲ與フルニアリトシ、此點ヨリ古文ヲ虚飾ノ具トシテ之ヲ退ゾケ、人間ノ完全ナル生活ヲ五段ニ分チ、第一自己保存ニ關スル活動、第二生活スルニ必要ナル物質的材料ヲ收得産出スル活動、第三一家ヲ整理シ子孫ノ繁榮ヲ計ル活動、第四政治社會ニ處スル活動、第五心身ヲ慰樂スル審美的活動ヲ含ムトシ、此五個ノ活動ヲ附與セバ、即チ能ク一身ヲ支ヘ、家族ト國家トノ務ニ當リ、同時ニ美術ヲ解シテ、愉快ナル生活ヲ送ラシムルコトヲ得ベシトシ、是等知識ノ收得、道德ノ修練ヲ皆理科ノ教フル所ト論ゼリ。

氏ノ思想ヲ、本國ニテハペーじ、じよほのつとナド承ケテ、各之ヲ教育上ニ主張シ、此派ノ思想、亦我國

實業教育ノ勃興

ニモ傳ハリ來レリ。

第六節 實業教育ノ勃興 此世紀ニハ、又理科學ノ應

用、一層其歩ヲ進メシヨリ、殖産工業大ニ起ルニ至リテ、實業教育勃興シ、而シテ又歐米各國政府ハ、實業ガ立國ノ基礎タル事實ヲ認メテ、益、ユノ教育ヲ獎勵スルニ至リ、高等ナル又簡易ナル農工商其他ノ諸學校起レリ。カク實業學校ノ起ルト共ニ、普通教育ニ於テモ、實業ニ關係アル學科、大ニ重ンゼラル、ニ至レリ。例ヘバ理科學ガ從來ヨリハ大ニ重ンゼラレ來リタルハ勿論、手工ノ如キモ、一科トシテ編入セラレ、經濟、實業ニ關スル思想、何カノ形ニテ教ヘラル、ニ至レリ。之ヲ從來、宗教文學ニ關スル學科ガ重ンゼラレタルニ比スレバ、其面白大ニ改マレルモノアリ。

第七節 不具者教育 猶此世紀ニハ、不具者ヲ教育ス

不具者教育

ル道ヲ開キタリ。盲聾、啞、白痴ノ如キモノヲ教育スル學校、殊別ニ起サレ、特殊ノ教育法ヲ研究シテ之ヲ常人ニ近カラシムトスルニ至レリ。而シテ又不良ノ子弟ハ、殊別ノ教育法ヲ以テ教育セザルベカラザル見解承認セラレ、感化院ノ設立ヲ見ルニ至レリ。

第十一章 歐米現時ノ學制

第一節 歐米ノ學制ト本邦教育 歐米諸國現時ノ學制ハ、上來述べ來リタル如ク、漸ク以テ發達シタリトハ言へ、十九世紀ノ間ニ最モ整頓シタリ。ソノ中米國ト佛國トノ學制ハ、我國維新後學制頒布ノ當時ニ參考セラレ、獨逸ノ學制ハ近年大ニ參考セラレ、共ニ我國ノ教育ニ影響セリ。以下獨佛、英、米、四ヶ國現時ノ學制ヲ述ベテ、我學制ノ據リ所ヲ示ス

ベシ。

第二節 獨國 獨逸諸聯邦ハ、其學制ニ於テ、大體ハ一致セルモ、先ヅ獨立ナリ。就中普魯西ハ、最モ勢力アリテ、教育ノ發達ニハ常ニ先頭ニ立チ、其模型ト見ルニ足レバ、茲ニ普魯西國ノ學制ヲ舉クベシ。

普魯西ニハ、文部大臣アリテ、全王國ノ學事ヲ總攬ス。文部大臣ハ國會ニ對シ、學校ノ利害ヲ代表シ、學事ノ要求ニ注意シ、學校ノ豫算ヲ組ミ、一般ノ教育ノ行政長官ナリ。其下ニ州學務局、縣學務局、郡學務局、及ビ區學務局屬ス。

普魯西ニハ十三州アリテ、一州ニ一學務局アリ。其學務局長ハ其州ノ教育最高ノ行政官ニシテ、學校視學官ト屬官ト屬ス。其務ハ、其州ノ學校經濟ヲ整理シ、高等學校ニ用ヒラル、教科書ヲ選擇シ、又師範校ノ教師ヲ任選シ、毎年一回文部大

臣ニ報告ス。此十三州、更ニ三十六ノ縣ニ分レ、一縣ニ一學務局アリ。其務ハ州學務局ガ高等教育ノ事務ニ關係スルニ對シ、普通教育ニ關シ、國民學校ノ教師ヲ任選シ、其教科書ヲ選擇ス。縣更ニ郡ニ分レ、一郡ニ又學務局アリ。其局長ハ學校視學官ナリ。此視學官ハ終身官ニシテ全力ヲ其郡ノ教育ニ盡ス。其務ハ校舍ヲ建築シ、教師ノ俸給額ヲ定メ、其經濟ヲ監督シ、強迫就學法ヲ督促スルニアリ。郡更ニ區ニ分レ、區學務局アリ。其務ハ不就學兒童ノ就學ヲ督促シ、校舍、校具ヲ修覆シ、又教師ノ任命ニ容嘴ス。

健全ナル各兒童ハ、六歳ヨリ十四歳マデ學ニ就クベキコトヲ強迫的ニ規定セラル。若シ之ヲ守ラザル父兄アラバ、罰金ヲ課セラレ、或ハ禁錮ノ刑ニ處セラル。實際貧ニシテ學ニ就カシムルコト能ハザル場合ニハ、之ヲ感化院ニ送ラル。此法

令ハ、嚴重ニ行ハレ、千八百九十三年ノ統計ニ依レバ、普魯西全國ノ學齡兒童五百二十九萬九千三百十人ノ中、不就學者ハ僅ニ九百四十五人即チ一萬分ノ二ニ過ギズ。而シテ猶同年ノ調査ニ依レバ、徵兵ノ百分ノ九十九半ハ、優ニ讀ミ書キ出來シトイフ。

學校ノ種類ヲ言ヘバ、先ヅ國民學校即チ小學校アリ。村落ノ小學校ニテハ男女混合教育ナレドモ、都府ニテハ別ナリ。時間ハ午前ニ於テハ八時ヨリ十一時マデ、午後ニ於テハ水曜ト土曜トハ休ミニシテ、他ハ二時ヨリ四時マデナリ。學科ハ宗教、國語、數學、圖畫、歷史、地理、理科、唱歌、體操トシ、女子ニハ手藝ヲ課ス。學校ハ、無謝儀ノ制ヲ取り居レドモ、未ダ全ク無謝儀ニ至ラズ。コノ小學校ハ、高等學校又ハ中學校ト聯絡ナク、下民ノ子弟ノ小學ヲ卒リテ高等教育ヲ受クル唯一ノ進ミ

路ハ師範校ニ入ルニアルノミ。小學ヲ卒リタルモノ、爲メ
 ニ夜學校、日曜學校ノ如キ補習學校ハ備ハレリ。中學校ニハ
 二種類アリ、文科中學ト實科中學ト是ナリ。甲ハ保守的ニシ
 テ古語ニ重キヲ置キ、乙ハ進歩的ニシテ近世語ト科學トニ
 重キヲ置ク。此二種ノ中學校トモ前ニ言フ如ク、小學校トノ
 連絡ナキ故、一ノ專門ヲ以テ世ニ立タントスル者ハ、九歳晚
 クトモ十歳ヨリ此何レカニ入ラザルベカラズ。ザレバ大學
 ニ進マントスル者ハ、初メヨリ小學校ニ入ラズ、九歳ニシテ
 此何レカニ入ルカ、又ハ小學ノ最初ノ三年四年ヲ終リテ、直
 チニ之ニ入ラザルベカラズ。大學ニ進ムニハ、此二個ノ中學
 校ヲ過グル外ニハ道ナク、而シテ大學ヲ終ルニアラザレバ、
 全ク一ノ專門ニ就ク能ハザルガ故ナリ。學校制度ノ頂上ハ
 言フ迄モナク大學ナリ。學校ノ費用ハ、一半ハ國庫ヨリ、三分

ノ一ハ地方稅ヨリ、其他ハ基本金及ビ寄附ヨリ來ル。
 小學校ノ教師ハ、師範校ノ卒業生カ、若シシハ之ト同様ノ教
 育的準備ヲ有セル者ナリ。大學ノ卒業生ガ稀ニ小學ヲ教フ
 ルコトアレド、其多クハ中學校、私立校ヲ教ヘ、或ハ家庭教師
 トナル。小學校ノ教師ハ、多ク小學校ヲ出デタルモノニテ、其
 小學ニアル間、教師ニ適スト學校視學官ヨリ認メラレバ、
 父母ノ承諾ノ上、小學ヲ終ルヤ、三箇年間、其豫備校ニ送ラル。
 カクテ十七歳ニシテ師範校ニ入り、其最後ノ三年級ハ全ク
 實習ニ費ヤサル。師範校各級ノ生徒定員ハ三十人ヨリ三十
 六人ニシテ、一校ノ定員約百名トス。師範校ヲ卒業スレバ、三
 年間准教員トシテ、前自身ガ居リシ學校ノ校長ト學校視學
 官トノ監督誘掖ヲ受ケ、結果良ケレバ最後ノ教育ノ試験ヲ
 受ケテ正教員トナリ、不適任カ不道德ノ故ニアラザレバ其

佛國

位置ヲ動カサル、コトナシ。俸給ハ高カラザレドモ、住宅ナ
 ド無料ニシテ、又年功加俸アリ。

第三節 佛國 佛蘭西ニハ獨逸ト均シク文部大臣アリ
 テ全國ノ學事ヲ總轄ス。文部省ハ、初等、中等、高等ノ三學務局
 ニ分レ、各局長アリ。文部省ヲ助クルニ、更ニ視學局ト高等教
 育會議トアリ。高等教育會議ハ文部大臣ヲモ動カス權力ヲ
 有ス。

佛蘭西全國ハ十七大學區ニ分レ、各大學區ニ一個ノ教育局
 アリテ、其區内殊ニ其高等教育ニ關スル監督委任セラル。其
 ノ十七大學區、更ニ九十ノ中學區ニ分ル。各中學區ニ、主トシ
 テ初等教育ニ關スル一ノ教育會議アリ。其長ハ學校視學官
 ナリ。各中學區ニハ一二ヲ除ク外、男女一個所宛ノ師範校ア
 リ。九十ノ中學區、更ニ小學區ニ分レ、各小學區ニ、一ノ教育行

政官ト一ノ教育會議トアリ。小學區更ニ學區ニ分レ、各學區
 ニ教育局アリテ、直接ニ個々ノ學校ヲ監督ス。斯クノ如ク佛
 國ノ學制ハ、高キヨリ卑キニ至ルマデ一貫セル行政系統ア
 リテ、圓滿ニ相待チテ其教育事務ヲ執リ、事務敏活ナリ。

小學校ノ學齡ハ、六歳ヨリ十三歳マデニシテ、公私何レカノ
 學校ニ入ラシム。其強迫教育令ヲ布キタルハ千八百八十二
 年ノ事ナリトイヘドモ、着々効ヲ奏シ、千八百九十五年ニハ
 學齡兒童百分ノ九十一ハ就學セリ。

佛國ノ學校制度ハ、其幼稚園ヨリ大學マデ、整然タル系統統
 一ヲ有セル點ニ於テ、世界第一ト稱セラル。母ノ學校ハ朝ヨ
 リ夕ニ至ルマデ、二歳ヨリ六歳ニ至ルマデノ子供ヲ預リ、其
 親ヲ職業ニ從事セシムル組織ニシテ、育兒院ト幼稚園トヲ
 結合セルモノナリ。其費用ハ國庫ヨリシ、現今ニ於テ凡ソ二

千個所ノ設立アリ。母ノ學校ト並ビテ幼稚園アリ。之ハ四歳ヨリ六七歳マデノ兒ニ、小學教育ノ豫備ヲ爲サシムル所ニシテ、其數、母ノ學校ヨリモ多シ。費用ハスベテ國庫ヨリ支出セラレテ、學校制度ノ一部分ナリ。小學校ハ、初等ト高等トノ二ツニ分ル。初等小學校ハ、強迫ニシテ、男女ハ人口五百以下ノ所ヲ除キテハ、各別ニセラル。生徒ハ一様ノ制服ヲ着ケ、一週五日登校ス。木曜ハ全ク休日ナリ。公立小學校ニハ、全然宗教ノ教授ナク、科目ハ修身及ビ國民教科、讀書及ビ習字、數學、歴史及ビ地理、理科、圖畫、唱歌、手工、體操ナリ。學校ニハ、生徒ノ成績表ヲ備ヘ、毎月ノ成績ヲ記入ス。高等小學校ハ、三部ニ分ル。一部ハ初等小學校ノ補習ヲ爲シ、又實際生活ニ必要ナル科目ヲ學バントスルモノヲ入ラシメ、二部ハ高等教育ニ進ム者ノ豫備ヲ爲サントスル者ヲ入ラシム。一部ハ年限ニ規

定ナク、二部ハ五年ヲ要シ、十八歳ニシテ終ラシメ、各種ノ實業學校、師範學校ニ入ラシム。中學校ハ之ヲ「セー」ト呼ビ、略獨逸ノ中學校ニ似タリ。教育制度ノ頂上ハ、即チ國立大學ニシテ、ソノ數十五アリ。佛國教師ノ俸給ハ、スベテ國庫ヨリ拂ヒ、校舍建築費ノ如キハ、或ハ寄附、或ハ地方稅ヨリス。謝儀ハ母ノ學校ヨリ大學ニ至ルマデ徵收セズ。教師ノ養成ニ就キテハ、師範學校アリ。之ニ尋常ト高等トノ別アリ。尋常師範校ハ、各州ニ凡ソ男女一校宛ニシテ、男子八十七校、女子八十五校アリ。高等師範校ハ、男子ニ一校、女子ニ一校、又幼稚園教育研究者ニ一校アリ。尋常師範校ニ入ル者ハ、少クモ十六歳ニシテ、品行方正、學業優等ニシテ十年以上教職ニ從事スルヲ盟ヒタルモノヲラザルベカラズ。學年ハ三ケ年ニシテ、卒業後、暫クハ准教員トシテ使ハレ、十年ノ内

ニ、最後ノ試験ヲ經テ正教員トナリ、不道德ノ行アルニアラザレバ、職ヲ罷メラル、コトナシ。高等師範校ニ入ル者ハ、十八歳ヨリ二十五歳マデノ者ニシテ、三年間修業セシメ、卒業ノ後ハ、校長、視學官、尋常師範學校ノ教師等ニ任命セラル。小學校及ビ尋常師範校ノ教師ノ俸給ハ差等アリテ、次第ニ昇級ノ道開ケ、三十五年以上在職ノ者ハ、俸給ノ四分ノ三ノ退隱料ヲ給セラル。

英國

第四節 英國 英國ハ保守的ノ國ニシテ、他國ノ如ク教育制度ノ確立ニ注意セザリシガ、千八百七十年以後、政府ハ普通教育ニ補助ヲ與フルマトオ計リ、爲メニ同年ニ百五十萬ナリシ就學兒童ガ千八百九十五年ニハ、五百萬ニ上ルニ至レリ。コノ改革令ニ依リ、一般ノ教育事務ハ、教育會議委員ニ依リテ施行セラレ、此委員會ハ補助費ヲ配分シ、カチテ普

通教育ノ一般ノ監督ヲ爲ス。各地方ニハ、地方學務局置カレ、政府ノ視學官配置セラル。抑、英國ニハ、十九世紀ノ始メニ、ベ
 る、らんかすたノ二人アリテ、共ニ互助教授法ヲ發明シ、相
 競ヒテ普通教育ニ盡シ、ガ、コ、ニ至リ、漸ヤク政府ノ事業
 トナリ、在來ノ私立小學校ハ之ヲ保護スルト共ニ、又新ニ之
 ナ設立スルニ至レリ。

學齡ハ五歳ヨリ十四歳マデニシテ、十一歳マデハ是非トモ
 就學セシム。千八百九十六年ノ平均就學兒童ハ、百分ノ八十
 五ニ上レリ。英國ニテハ、又製造所ヤ礦山ナドノ事業ニ使用
 スル兒童ノ教育ニ對シテ、注意ヲ爲シ、好結果ヲ奏セリ。中學
 校ハ全ク私立ノ事業ニ委任セラル。公立學校ト呼バル、モ
 ノ是ナリ。いとん、はーろー、るつぐびー、うえすとみんすた
 ーノ如キ其著名ナルモノナリ。大學モ私立ニシテ、公立教育

ノ系統ヲ形作ラズ英國ニテハ、小學校ニ次グ所ノ高等學校ノ系統アラズ。

小學校ノ費用ハ、國庫、地方稅、基本金、月謝、及ビ寄附金ニ依リテ立ツ。國庫ハ全額ノ百分ノ六十四、地方稅ハ百分ノ二十ニシテ、餘ノ十六ハ、他ノ三財源ヨリス。一體ノ傾ハ、國庫ノ補助ヲ増シテ、無謝儀ニセントスルニアリ。

教師ノ養成ニツキテハ、英國ハ特殊ノ風アリ。從來ハ、ベラんかすたトノ互助教授法ニ依リテ、年長ノ生徒ヲ、生徒教師トシテ使用シ、之ヲ漸次教師ニ引キ上ゲタルガ、近來ハ、年齡十八歲頃ノ者ヲ、二年間、教師養成專門校ニ學バシメテ、之ヲ教師トスル方針ヲ取り、此方ノ教師、遙ニ増加スルニ至レリ。英國ハ、教師ノ待遇宜シシ、男子ハ一年平均、六百弗、婦人ハ三百八十弗ナリ。

米國

第五節 米國 北亞米利加合衆國ニハ、國立教育制度ナ

ク、各州格別ノ教育制度ヲ有セリ。千八百六十七年ニ、國會ハ國立教育局ヲ創立セシガ、之ハ獨佛ニ於ケル文部省ノ如キモ、ソニハアラデ、其務ハ、合衆國諸州ニ於ケル教育ノ現状及ビ進歩ヲ示ス統計ト事實トヲ集メ、又十分ナル學校制度ノ創設維持ニツキ、合衆國ノ人々ヲ助クル如キ外國學校ノ管理、編制法、學校制度、及ビ教授ニ關スル報告ヲ公布スルニアリ。

合衆國政府ハ、千八百三十六年ニ、三千萬弗ヲ諸州ノ學校ノ基本金トシテ分チ、千八百七十六年ニハ、教育ノ爲メニ殆ンド八千萬「エトクル」ノ土地ヲ交附セリ。

各州ノ學校制度ノ長ニ公立教授視學官ト呼バル、行政官アリ。任期ハ二年ヨリ四年ニシテ、一般ノ投票ニ依リテ選舉

セラル、コトモアレバ、其州ノ教育局ヨリ選バル、コトアリ、又時ニハ其州ノ知事ヨリ擧ゲラル、コトモアリ。其務ハ報告ヲ作り、教師ヲ試験シ、學校ヲ視察シ、教育費ヲ分配シ、學校ノ批評ニ注意シ、其州ノ教育上ノ利害ニツキ、一般ノ監督ヲ爲スニアリ。州ニ依リテハ、其州ノ教育局アリ、此視學官ト協同シテ教育事務ヲ執ル所アリ。其州内ノ小サナル事務ニ至リテハ、其地方々々ノ學校視學官ト、地方學務局若シクハ地方教育委員トニ依リ施行セラル。

普通教育ヲ受クル學齡ハ、州ニ依リテ同ジカラズ。概シテ五歳ヨリ十八歳マデノ間ナリ。就學兒童數ハ、平均百分ノ六十八ナリ。英佛獨ニ比スレバ、比率甚ダ低キガ、コレ合衆國ニテ就學強迫法ヲ勵行セザルト、學年ノ頗ル長キトニ依ル。合衆國學校ノ種數ハ一小學校、二高等學校、及ビ各種實業學

校、三專門校及ビ大學ノ三ツトス。小學校ハ八年ノ學年ニシテ十四歳ニ終ルヲ通例トス。此間ヲ尋常、高等ノ二ツニ分チ、其下ニ幼稚園ヲ附屬セシムルモアリ、學科ハ讀ミ、方、書キ、方、數學、地理、英文法ヲ重ナルモノトス。高等學校及ビ各種實業學校ハ、四年ノ課程ニシテ、專門校ニ入ルヲ欲セザル者ニ、一般ノ教育其他ノ實業教育ヲ與フルヲ主トス。專門校ハ、其事業ノ範圍及ビ課程ニ於テ一致セズ。大學ニハ通例高等學校又ハ專門校ノ卒業生ヲ入ル、規定ナレド、中ニハ然ラザルモノアリ。小學校及ビ高等學校ハ諸州概シテ無謝儀ナリ。各種ノ學校トモ男女混同教育ナリ。教育費ノ三分ノ一ハ地方稅ヨリ支出セラレ、州ヨリハ五分ノ一ヲ補助スルニ過ギズ。其餘ハ皆基本金ヨリ生ズル利子ヲ以テ補フ。亞米利加ノ人々ハ、教育費ト言ヘバ、聊モ惜ム心

ナシ。
 合衆國ノ普通教育ニ從事スル教師ハ四十萬人アリテ、其三分ノ一ハ男子ニシテ、三分ノ二ハ婦人ナリ。而シテ其教師タル教育ヲ受ケタルモノハ、十分ノ一ニ過ギズ。教師養成ノ道トシテハ師範校ト大學ノ教育部トチ重ナルモノトス。師範校ハ三年ノ課程ナルガ多シ。近年ハ高等學校ニ教育科ヲ設ケテ教師ノ補充ヲ計ラントシツ、アルモ十分ナラズ。教師ノ任命ハ、一般ニ一年チ期トシテ地方學務局之ヲ爲ス。千八百九十六年ニ其俸給平均額、男子ハ月、四十七弗餘、婦人ハ四十弗餘ナリキ。

第十二章 本邦維新以後ノ教育

第一節 王政維新ト教育 徳川幕府ノ末路、内ニハ政

王政維新ト教育

綱ノ弛ムアリ、外ニハ海外諸國トノ外交ノ開ケントスルアリ、同時ニ勤王心ノ勃興スルアリテ、世ハ再ビ躬ヲ皇朝ノ治メサセ給フ所トナレリ。明治元年ニ布カセ給ヒシ、五條ノ誓文ハ、以テ維新ノ宏謨ヲ伺ヒ奉ルニ足レリ。曰ク、「一、廣ク會議ヲ起シ萬機公論ニ決スベシ。一、上下心チ一ニシテ盛ニ經綸ヲ行フベシ。一、官武一途庶民ニ至ルマデ各、其志ヲ遂ゲ人心チシテ倦マザラシメ、ンコトヲ要ス。一、舊來ノ陋習ヲ破リ、天地ノ公道ニ基クベシ。一、知識ヲ世界ニ進メ、大ニ皇基ヲ振起スベシ」ト、此宏謨ニ依リテ、我が開國進取ノ方針立チ、國內ノ統一成リ、内ニハ四民ノ階級取り去ラレテ、皆國家ノ子トナリ、從ウテ教育ノ面目モ殆ンド一變スルニ至レリ。明治ノ初年、朝廷早ク教育ニ心ヲ留メサセ給ヒ、仁孝天皇ノ建テサセ給ヒシ京都ノ學習院ヲ以テ大學寮代トシ、舊幕ノ

昌平黌、醫學館、開成所ヲ復興シ、天下ノ學者ヲ徵シテ之ガ教授ニ任ジ、府縣學校取調局、史料編輯國史校正局ヲ昌平黌内ニ設ケ、又翻譯局ヲ開成所ニ置カレヌ。

翌年昌平黌ヲ大學ト改メ、其翌年諸藩ニ命ジ、十六歲以上二十歲以下ノ偉材ヲ選ビテ之ヲ貢進生ト稱シ、大學南校ニ入學シテ洋學ヲ研究セシメキ。

四年、文部省ヲ創立シ、卿輔以下ノ官ヲ置キテ、全國ノ學事ヲ總轄セシメ、大木喬任ヲ文部卿ニ任ジ、繼ギテ理事官ヲ歐米ニ派遣シテ學事ヲ調査セシメ、五年七月ニ至リ始メテ學制ヲ頒布セラレタリ。

第二節 維新後ノ教育ト從前ノ教育

學制頒布後ノ教育ヲ述ブル前、此維新後ノ教育ト、從來ノ教育トガ如何ナル關係ニ立ツカチ考察シ、置カザルベカラズ。王政維新ハ、

維新後ノ教育ト從前ノ教育

右述ブルガ如ク、我國ノ政治ヲ殆ンド一新スルト共ニ、大ニ西洋ノ文物制度ヲ採用シテ、國體ノ上ニモ、國民ノ思想ノ上ニモ、大變動ヲ來シタル時ナルヲ以テ、此後ノ教育ハ、從來ノ教育トハ、全ク異様ノ觀ヲ爲シ、其間ニ何等相關係スル所ナキガ如ク見ユレド、決シテ左ニアラズ。二千五百有餘年流レ來リタル我國國民教育ノ精神ト方法トハ、此維新ノ大變動ニ依リテ、大ナル影響ヲ受ケタレ、又之ガ爲メ、大ナル發達コソ爲シタレ、ソノ根底ニ於テハ、殆ンド異ナル所ナク、我國國民精神ハ、依然トシテ唯開展シ發達シツ、アルナリ。既ニ德川時代ニ及ビテハ、官立ノ高等教育機關起サレ、普通教育モ亦大ニ注意セラレ、女子ノ教育モ起サレ、而シテ教育ノ惠ハ普ク全國ニ及ビタルコトハ、前ニ説キタル如クニテ、維新後モ亦直チニ是等德川時代ノ教育ヲ再興スルコトニ手ヲ着

ケラレタルヲ見テモ、其間ニハ殆ンド連鎖ノ絶ツベカラザルモノアルヲ知ルニ足ル。

維新後ノ教育ハ、其精神、方法、制度ニ於テ、慥ニ一大變動ヲ來シ、教育史ノ面目爲メニ一變セリトイヘドモ、猶其間ニハ絶ツベカラザル關係ノ存シテ、我ガ國民教育ノ精神ガ、漸次ニ發達シ行ク様ヲ看取スベシ。

學制ノ制定

第三節 學制ノ制定

明治五年七月ニ頒布セラレタ

ル學制ハ、即チ我國普通教育ノ基ヲ置キタルモノニテ、其學制ハ、歐米ニ派遣セラレタル學事ノ理事官ガ齎ラシ、結果ヲ參照シタルモノニテ、佛國ノ學制ハ、殊ニ依準セラレタリ。即チ全國ヲ八大學區ニ分チ、一大學區ヲ分チテ三十二中學區トシ、一中學區ヲ分チテ二百十小學區トシ、全國ニテ五萬三千七百六十區ヲ設ケ、而シテ區毎ニ小學校一ヶ所ヲ設ク

ル豫定ニテ、中學區内ニ、學區取締十名乃至十二三名ヲ置キ、地方官之ヲ任命シ、一名ニ小學區二十乃至三十ヲ受持タシメ、其區内ノ人民ヲ勸誘シテ六歳以上ノ者ハ、必ズ學ニ就カシムルコト、及ビ學校ノ設立保護、其他一切ノ學務ニ關スルコトヲ擔任セシムル計畫ナリキ。此學制、盡クハ行ハレザリシトイヘドモ、ソノ我普通教育ヲ進ムル一大段落ヲ爲シ、ハ争フベカラズ。

コノ學制ノ頒布ト共ニ、畏クモ勅諭ヲ賜ハリタリ。其略ニ曰ク、凡日常ノ事ヨリ農、商、工藝、政治、醫療等、人ノ營ム所ノ事、皆學問アラザルハナシ。サレバ學問ハ身ヲ立ツル財本ト言フベキモノニシテ、人タル者、誰カ學バズシテ可ナランヤ。而ルニ從來學問ヲ以テ士人以上ノ事トシ、農、工、商、及ビ婦女子ヲ舉ゲテ之ヲ度外ニ置ケリ。自今以後、一般ノ人民ヲシテ、均シ

ク學ニ就カシメ、邑ニ不學ノ戸ナク、家ニ不學ノ人ナカラシ
メシトナ期ス。且學費ヲ以テ官ニ依頼スルハ、從來沿襲ノ
弊ニシテ、惑ヘルノ甚シキモノナレバ、自今奮ヒテ學問ニ從
事スベシト。カクテ學校維持ノ本體ヲ授業料トシ、各學區内
ノ寄附金積金ノ利子ヲ以テ之ヲ補ヒ、普通教育ノ爲メニ男
女一人九厘ノ分頭ヲ以テ補助金ヲ出シテ、府縣ニ委托シ、銳
意教育ノ振興ヲ計レリ。

同年九月ニ、舊昌平蠻跡ニ東京師範學校ヲ開キ、米人すこつ
とを擧ゲテ其教師トセリ。其六年ニ、米人むしれ一ヲ聘シテ
學監トシ、各學校ノ教則ヲ調査セシメ、又此年ニ大坂、宮城ニ
師範學校ヲ立テ、七年、愛知、廣嶋、長崎、新潟ニ又師範學校ヲ置
ケリ。八年、小學ノ學齡ヲ定メ、官立女子師範學校ヲ東京ニ設
ケヌ。九年、東京女子師範學校内ニ幼稚園ヲ設ケヌ。十年、府縣

教育令ノ
發布

公立師範學校ヲ起サシメ、東京開成學校及ビ東京醫學校ヲ
併セテ東京大學ト稱シ、文、法、理、醫ノ四部ヲ設ケヌ。十一年、體
操練習所ヲ建テキ。

第四節 教育令ノ發布

十二年ニ至リ、學制ハ劃一ニ

過グル嫌アルヲ以テ法規ヲ寬ニシ、小學校ノ區域、教科、學費
等ハ、唯其大體ヲ規定シ、之ヲ町村ノ協議ニ委テタリ。其結果
餘リ宜シカラザリシヲ以テ、十三年ニ、改正教育令ヲ出シ、小
學校ノ區域、教則ハ、地方長官之ヲ定ムルコト、シ、其重要ナ
ル事件ニ至リテハ、文部卿ノ認可ヲ受ケシメキ。十四年、文部
卿福岡孝悌ハ、教師ガ自由民權ノ說ニ醉ヒテ、政治熱ニ驅ラ
レシコトヲ憂ヒ、小學教員心得ヲ公布シ、漢學ヲ獎勵セリ。十
八年再ビ教育令ヲ改メテ、人民ノ負擔ヲ減ズルコトヲ計レ
リ。

第五節

學校令ノ發布

十八年ノ末、森有禮、文部大臣

ニ任セラレ、着々學制ヲ伸張セリ。十九年ノ二月ニ、先ヅ文部省ニ視學官ヲ置キ、三月ニ帝國大學令、四月ニ師範學校令、中學校令、小學校令、諸學校通則ヲ發布シ、略、大中小諸學校ノ系統ヲ立テタリ。森氏ハカク學校令ヲ整頓スルト共ニ、諸學校生徒ノ氣質鍛練ニ注意シ、兵式體操ヲ獎勵シ、殊ニ師範學校ノ生徒ニ順良、信愛、威重ノ三德ヲ備ヘシメンコトヲ注意セリ。此頃ヨリ我學制ノ制定ニハ獨逸ノ制度ヲ參照スルコトハサレリ。二十三年、小學校令ヲ改正シ、小學校ノ本旨、編制、就學、設置ヲ規定シ、翌年之ニ伴フ諸規則ヲ發布セリ。二十六年、井上毅、文部大臣トシテ、高等學校令ヲ公布シ、又實業教育國庫補助法ヲ公布セリ。

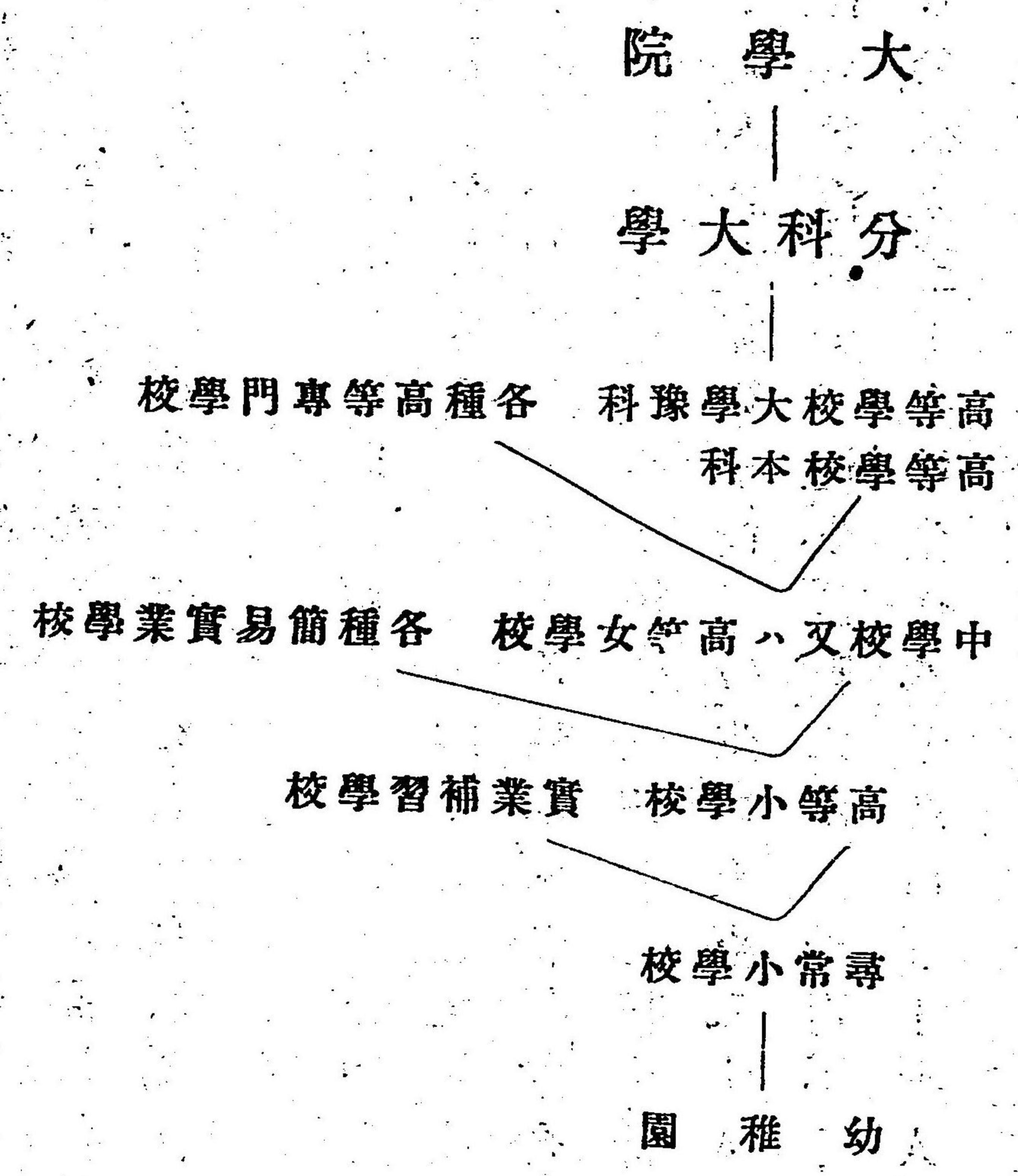
第六節

現行ノ學制

現行ノ學制ハ以上ノ如クシテ

二十八年、高等女學校規程ヲ發布シ、二十九年、市町村立小學校教員年功加俸國庫補助法ヲ定メタリ。二十九年、文部省ニ學校衛生顧問及ビ學校衛生主事ヲ置ケリ。高等教育會議ヲ設ケシモ、又此年ナリ。三十年、地方視學官ヲ置キ、又師範教育令ヲ發布シ、從來一府縣ニ一校ヲ設置スルコトニ定マリシヲ、數校ト改メ、私費生ヲ置クコトヲ得ル如クセリ。三十三年ニ至リ、更ニ小學校令ノ改正アリ、之ニ附帶シテ、小學校令施行規則ヲ定メ、又小學校ノ教育ニ用フル假字及ビ其字體、字音假字遣ヲ一定シ、尋常小學校ニテ用フル漢字ノ字數ヲ制限セリ。現今ノ小學教育ハ、此令ニ依リテ施行セラ

發達セシモノニテ、今其連絡ヲ表ニテ示セバ左ノ如シ。



此外小學校ノ教師ヲ養成スル爲メ師範學校ト、師範學校、中學校及ビ高等女學校ノ教師ヲ作ル爲メ高等師範學校トノ設アリ。又農、工、商ノ實業學校ノ教員ヲ作ル爲メ三個ノ養成所アリ。

文部省第二十七年報即チ明治三十二年末ノ統計ニ依レバ、小學校數官公私立合シテ二萬六千九百九十七校、生徒數四百三十萬二千六百二十三人、盲啞學校公私立合シテ七校、生徒數四百五十八人、師範學校公立四十九校、生徒一萬二千八百二十九人、高等師範學校二校、生徒五百八十八人、中學校官公私立合シテ百九十一校、生徒數六萬九千七百七十九人、高等女學校官公私立三十七校、生徒八千八百五十七人、高等學校六校、生徒五千〇九十人、帝國大學官立二校、生徒二千九百三十三人、專門學校官公私立四十五校、生徒一萬二千六百二十四人、

實業學校官公立二百三十六校、生徒二萬四千七百十九人、各種學校公私立千四百四十五校、生徒七萬三千四百六十四人ナリ。就學義務ノ既ニ生ジタル學齡兒童百人ニ對シテ、就學比例ハ、男ニアリテハ八十五人、女ニアリテハ五十九人、四厘ナリ。

學風ノ變遷

第七節 維新後學風ノ變遷

維新後學制ノ發達シテ、遂ニ今日ノ制度ヲ見ルニ至リシハ、右ノ如クナルガ、之ト並ビテ其教育ヲ動カシ、精神、學風ハ、如何ニ變遷シテ以テ今日ノ如キ教育ノ精神ヲ取ルニ至リシカチ一瞥スベシ。德川時代ノ學風ハ、之ヲ一言ニ言ハ、漢學ニ依リテ士風ヲ作ルニアリテ、教育ノ目的ハ主トシテ品性陶冶ニ置カレシガ、維新ト共ニ海外ノ制度文物入り來リテ、是等ヲ取得シ模倣スルニ急ナルヤ、先ヅ智力ノ開發必要トナレリ。而シテ其

海外ノ制度文物ハ、理科學應用ノ結果多キニ居ルヲ以テ、是迄、修身、文學ニノミ向ケタル思想ヲ一轉シテ、之ヲ自然ノ研究、利用、厚生ノ途ニ向クルニ至レリ。斯クノ如ク教育ノ風潮然、德育ヨリモ寧ロ知育ヲ尙ブニ至リタルト同時ニ、米國人ヲ招聘シ來リテ學制ヲ立テシメ、米國風ノ教育思想ヲ傳ヘシメ、米國人ノ教育書、例ヘバ、トシ、なるせん、之ノ書ヲ如キ、續々翻譯セラレ、其他一般ノ學術工藝ニ關スルモノハ、モ、ヨリ、各學校ノ教科書マデ、米國人ノ著書翻譯セラレ、他方ニ「福澤諭吉ハ、世界國盡シ」ノ類ヲ著述シテ盛ンニ實用上ノ知識ヲ得シムベキ事ヲ計リ、教育ヲ以テ、殆ンド知識ヲ得シムルヲトシテ向ケタリ。而シテ其教育方法トシテハ、從來ノ如ク、注文的ニ暗記セシムルコトヲセズ、反對ニ心性開發ノ理ヲ依リ、成ルベク實物ニ訴ヘテ教授スベキ意見ヲ唱セラレタ

リ。此心性開發ノ理ニ依リ、ベすたるつち、ふれーべる諸氏ノ精神ヲ追ヒテ教育スベキ聲ハ、當時ノ東京師範學校、即チ今ノ高等師範校ヲ據所トシ、伊澤修二、高嶺秀夫等ニ依リテ唱ヘラレタルモノニテ、是等ノ人ハ、多ク米國ニ留學セシ人ナリ。此心性開發ノ理ニ依リテ、實際ノ用ニ適スル人ヲ作ルベキ主張ハ、米國ノじよほのつと、英國ノすべんさーノ教育論ニ依リテ一層盛ンニセラレタリ。じよほのつとハ、すべんさーノ思想ヲ承ケ、而シテ其すべんさーハ、十九世紀ヲ動カシタル生物學的進化論ノ思想ヲ取りテ世間有用ノ人ヲ作ルヲ教育ノ目的トセシモノナリ。即チ明治十二三年頃ノ教育界ヲ動カシタル思想ハ、米國ヨリ一轉シテ英國ニ入り、而シテ其英國ノ思想ハ、十九世紀ノ科學的精神ヲ代表セシモノナリ。

教育界ニ於ケル海外思想ヲ歡迎スルコト斯クノ如クナルト共ニ、一般ノ社會ニ於テハ、歐化熱盛ンニシテ、政治社會ハ佛國十八世紀ノ啓蒙思想、即チるーそー等ノ主張ニカ、ル自由、平等、博愛ヲ政治ノ原則トスベキ意見ヲ我國ニ活現シ來リテ、自由黨ヲ起スモノアリ、民選議院設立ノ議ハ愈、高マリ、一國ヲ擧ゲテ殆ンド歐洲思想ニ狂奔セシ觀アリ。而シテ此餘波自ラ教育ニ及ビシヲ以テ、明治十四年ニ、時ノ文部卿福岡孝悌ハ、之ヲ誠メテ、教育ノ要ハ、教師須ラク自尊自重シ、生徒ノ徳性ヲ涵養スベキニアルヲ諭シ、却リテ儒教主義ノ教育ヲ獎勵セリ。其十五年ニハ、大學文學部ニ古典講習科ヲ置キ、本邦歷代ノ制度文物ヲ研究セシムル道ヲ開キタル如キ、此歐化熱ニ對スル一現象ト見ルベシ。すべんさーノ教育論ノ絶板ヲ命ゼラレシガ如キモ亦其一ト見ルベシ。シカモ

十八年頃ニ至ルマデハ、歐化熱容易ニ覺メズ、男女ノ舞踏ハ
 學校教師間ニモ行ハレキ。
 明治十八年ノ末、森有禮ガ文部大臣トナリシハ、慥ニ維新後
 ノ學風ヲ匡正スル機會トナレリ。森氏ハ各學校令ヲ定ムル
 ト共ニ、大ニ國民教育ノ必要ト、氣質鍛鍊トニ着目シ、殊ニ小
 學校ノ教師ニハ、順良、信愛、威重ノ三德ヲ備ヘシメザルベカ
 ラズトテ、之ヲ師範學校生徒ニ規シ、又文科大學内ニ、教育學
 專攻ノ特約生ヲ募リ、獨逸人ハラすくねひとヲ聘シテ之ガ
 講師トシ、以テ高等中學等ノ教員ヲ作ラント計レリ。コレ我
 學風ガ英米ノ學風ヲ學ブヨリ轉ジテ、獨逸ノ學風ニ倣フ端
 緒ヲ開キタルモノナリ。はうすくねひとハ、蓋シへるばると
 派ノ教育學思想ヲ鼓吹セリ。
 明治二十二年ノ紀元節ニ、森有禮、刺客ノ手ニ罹リテ薨ズ。此

頃ヨリ歐化熱ノ反動トシテ、國粹保存ノ聲高マリ、國語漢文
 ノ研究盛シクナリ、國民ヲ教育スルニハ、須ラク我國體ヲ顧
 ミザルベカラズトイフコト、ナリ、智巧ノ徒ラニ人ヲ誤ル
 ニ氣付キテ、德育ニ留意シ來リ、學風較、著實トナレリ。而シテ
 我國教育ノ精神ヲ明示シ給ヒタル教育勅語ハ、實ニ其翌年
 ノ十月三十日ニ下賜アラセラルモノナリ。
 斯ク我國國民教育ノ趣旨、明ニナリシト共ニ、教育學說トシテ
 ハ、獨逸ノへるばるとガ、倫理的品性ヲ作ルヲ教育ノ目的ト
 スル說、サキニ文科大學ノ特約生タリシ人々ノ手ニ擴ゲラ
 ル、ニ至リ、イヨク、德育ニ重キヲ置クニ至リ、又學說ノミ
 ラズ、獨逸ノ國民教育ノ制度方法ヲ大ニ參照シテ、法令ヲ
 編ムニ至レリ。明治二十六年ニ、井上毅ガ文部大臣トナリテ、
 大ニ國學ノ精神ヲ發揮シタルハ、一層此學風ヲ張ルニ力ア

リタリ。井上毅ハ、國民生活ノ實業ニ負フ所多キヲ見、大ニ實業教育ノ振興ニモ盡力セリ。

明治二十九年ニ設置セラレタル高等教育會議ハ、唯ニ學制ノ進歩ヲ促ス事トナリタルノミナラズ。我國民教育ノ精神ヲ輕々シク動カサマラン意見ヨリ設ケラレタルモノニテ、各學校令ノ如キ、一應、文部大臣ヨリ此會議ニ諮詢スルコト、ナリ、會議員ハ又教育意見ニツキ、文部大臣ニ具申スルコトヲ得ルコト、ナリタレバ、從來ノ如ク、一大臣交ル毎ニ常ニ學風ノ變更ヲ來ス如キ弊ヲ減ズルコト、ナレリ。

カクノ如クシテ、我國民教育ノ趣旨ハ、兒童ノ徳性ヲ練リ、其知能ヲ啓發シ、各、其長ズル所ニ從ヒテ其身ヲ立テシメ、カク身ヲ立テシムルト共ニ、我帝國ノ一臣民トシテ、其肩ニ帝國ノ運命ヲ荷ヒ、以テ帝國ノ健全ナル進歩ヲ計ラシムルコト

私立學校

、ナリ、シカスルニハ、一面ニ我國民性ヲ本トシテ、國民タル志操ヲ有セシムルト共ニ、他面、今日、活世界ノ實狀ニ通ジ、世界的眼識ヲ備ヘテ、其身ヲ處セシムベキコト、ナレリ。而シテ現今ノ教育學思想ハ、社會國家ト個人トチ有機的關係アルモノト見做シテ、個人ニ社會的意識ヲ與ヘ以テ、其社會國家ノ健全ナル發達ヲ計ラシムル如ク教育スベシトイフ、社會的教育學思想、次第ニ承認セラル、ニ至レリ。

第八節 私立學校

明治ノ昭代ニ及ビ、唯ニ官立學校

ノ整頓セシノミナラズ、又私立學校モ起レリ。私立學校ノ最モ古キハ福澤諭吉ノ慶應義塾ニシテ、今日ニアリテハ幼稚舍ヨリ大學部ニ至ルマデ一貫セル系統ヲ有セリ。教育ノ精神ハ獨立自尊ノ人ヲ作ルニアリテ、多ク社會實用ノ人ヲ出セリ。中村敬宇ノ同人社ハ明治二年ニ起サレ、明治十四五年

頃ニハ盛シナリシガ、其二十四年ニ歿セシヨリ、閉校セリ。新
鵬襄ノ同志社ハ、明治八年ニ起リ、基督教ヲ教育ノ中心トシ、
修養アリ品位アル人ヲ作ラント志シ、幾多精神的ニ働ク人
ヲ作りタルモ、其二十三年ニ歿セシヨリ、大ニ振フニ至ラズ。
東京専門學校ハ、明治十五年、大隈重信ガ學問ノ獨立ヲ希圖
シテ起シタルモノニテ、今盛シナリ。此外、法律學校、其他各種
ノ専門學校、中學校等、枚舉スルニ遑アラズ。
第九節 社會教育ノ整頓 明治ノ時代ニ及ビテハ、社
會一般ノ人ヲ教育シ、カネテ學校教育ノ足ラザル所ヲ補フ
教育組織、整頓セラレタリ。即チ圖書館、博物館、動物園、植物園
ノ如キモノヲ建テラレ、他方ニ新聞雜誌起リテ有用ノ知識ヲ
一般ニ流布シ、又法律上ヨリ未成年者ノ喫烟ヲ禁セラレ、
ナド、各種ノ方面ヨリ、學校教育ヲ助クル設備具ハルニ至レ

リ。
第十節 今日ノ教育ヲ動カシツ、アル精神 以上
章ヲ重ネ節ヲ追ヒ、吾等ハ今日我國ノ教育ガ、如何ナル變遷
ヲ經テ、以テ今日ノ状態ヲ爲スニ至リタルカヲ考察シタリ。
悠々上下二千載、コノ間我國教育ノ變革ハ常ナラズ、時ニ盛
時ニ衰、而シテ支那、印度、歐米ノ教育思潮ハ、澎湃トシテ入リ
來リテ、一層浮沈ノ浪ヲ高カラシメタリ。シカモ、其一波去リ
テ一波來リ、盛又衰ヲ重ヌル間ニ、常ニ我國民性ハ發展シ行
キ、我國民教育ノ趣旨ハ、益明ニナリ行キテ、今後ノ我國家國
民ハ、教育ニ依リテ益宏遠ニシテ深大ナル發展ヲ遂ゲント
スル運ニ向ヘリ。
今日我國ノ教育ヲ動カセル大精神ハ、言フマデセナク、二千
五百有餘年前ヨリ發展セル我國民性ニシテ、此國民性ヲ發

附記一、右ノ表ニ於テ、支那宋儒ノ説ノ我國ニ入り來リシハ、鎌倉時代ノ末ニシテ、明ノ王陽明ノ思想ノ入り來リシハ、室町時代ノ末ニアリ。

附記二、歐米ノ教育ハ、歐米各國ニ亘リテ發達セシモ、其跡自ラ一系ヲ爲セルヲ以テ、此表ニハ一系トシテ發達セシ如クセリ。

教育史教科書終

附錄

本書ニ引用シ若シクハ參照セシ書目

本邦ノ部

- | | |
|-----------|-------|
| 教育史講義 | 谷本富 |
| 日本陽明學派之哲學 | 井上哲次郎 |
| 内外教育史 | 能勢榮 |
| 弘道館記述義 | 藤田彪 |
| 心學史要 | 足立栗園 |
| 日本教育史 | 佐藤誠實 |
| 貝原益軒ノ教育法 | 三宅米吉 |
| 日本文學史 | 三上參次 |
| 日本教育史資料 | 高津三郎 |
| 各藩學制 | 文部省 |
| 學士會院雜誌 | |

哲學雜誌

支那印度ノ部

古今學變

文献通考(學校考)

海外教育史要

支那教學史畧

佛教統一論大綱論其他

支那哲學史

宋元學案

四書

伊藤長胤

馬端臨

西村正三郎

狩野良知

村上專精

松本文三郎

全祖望

歐米ノ部

Browning's An Introduction to the History of Educational Theories.

Compayré's The History of Pedagogy.

Davidson's A History of Education.

Great Educators.

Lewes' Biographical History of Philosophy.

Painter's History of Education.

Quick's Essay on Educational Reformers.

Ranner's Pestalozzi's Life and System.

Rein's Encyclopädisches Handbuch der Pädagogik.

Schmidt's Geschichte der Erziehung.

Schorn = Reinecke's Geschichte der Pädagogik.

Schwegler's History of Philosophy.

Seeley's History of Education.

Vogel's Geschichte der Pädagogik als Wissenschaft.

明治三十三年五月
師範學校教科書
文部省檢定

不許複製

明治三十五年三月二十二日印刷
明治三十五年三月二十六日發行

教育史教科書
定價金七拾五錢

著者 中島半次郎

發行者兼 金港堂書籍株式會社

東京市日本橋區本町三丁目十七番地

代表者 原亮一 郎

右社長

東京市下谷區龍泉寺町四百十四番地

印刷所 株式會社 英舍

東京市京橋區西紺屋町廿六七番地

賣捌所 各府縣特約賣捌所

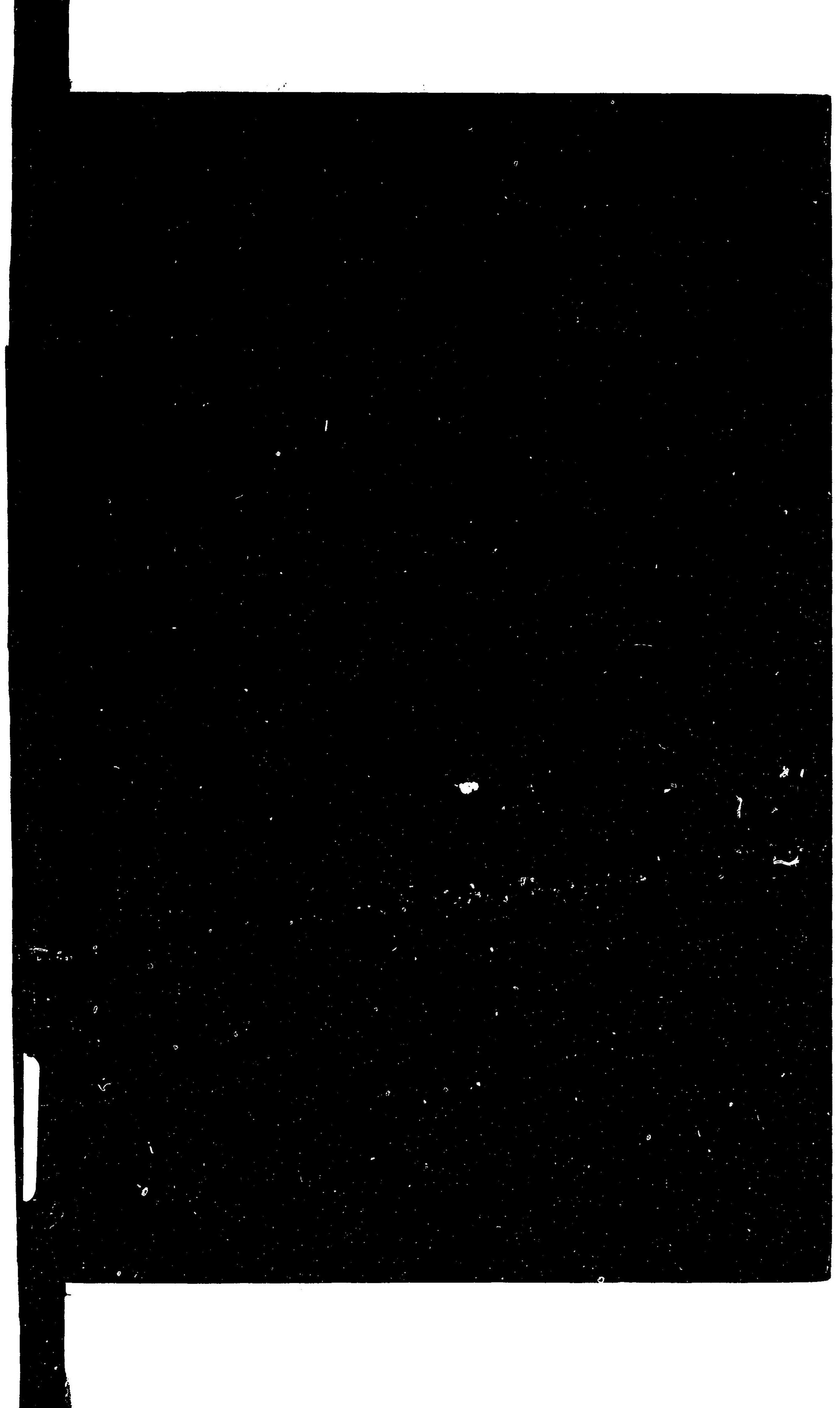
湯原元一氏執筆

教育叢書

- 一、教育と經濟 全壹冊 定價金參拾錢
- 二、歐米の師範教育 全壹冊 逐刊
- 三、歐米の中等教育 全壹冊 逐刊
- 四、歐米の視學制度 全壹冊 逐刊
- 五、義務教育 全壹冊 逐刊
- 六、五段教授法の研究 全壹冊 逐刊



255
32



255.1
32

046188-000-7

255.1-32

教育史教科書

中島 半次郎/著

M35

BEC-0061



